

sound mind sound body

本レポートの対象期間と対象範囲:

- ・ 期間:2010年度(平成22年度) 2010年4月1日から2011年3月31日まで
- ・ 組織:原則として株式会社アシックスの取り組みを紹介(一部でグループの取り組みも紹介)

発行日:

- ・ 2011年(平成23年)6月24日

本レポートに関するお問い合わせ先

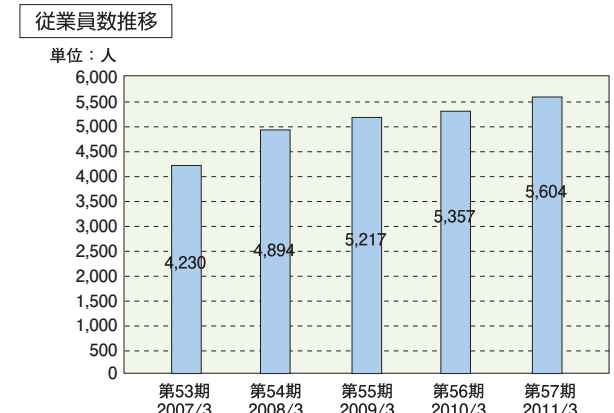
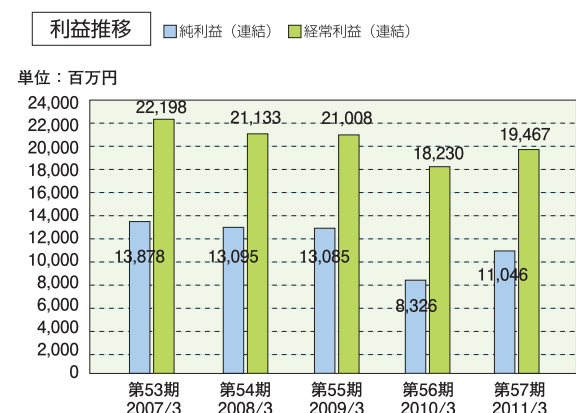
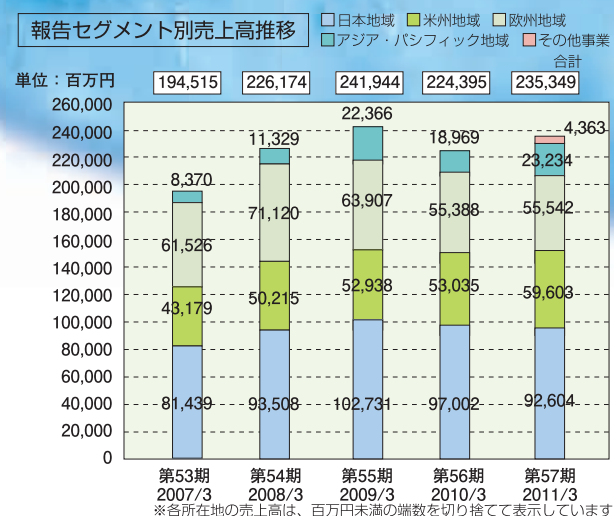
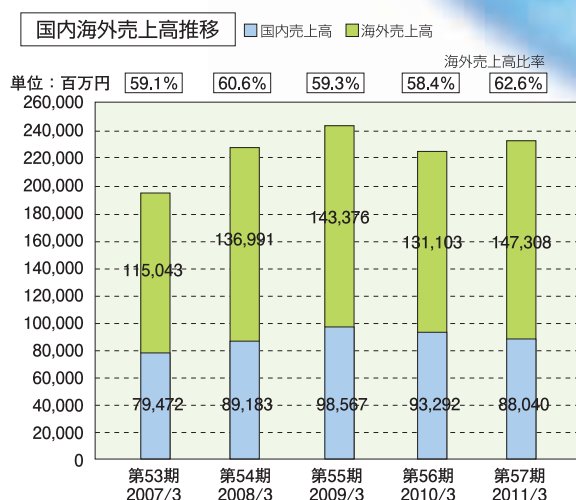
株式会社アシックス CSR推進室
〒650-8555 神戸市中央区港島中町7丁目1番1
Tel.078-303-1244 Fax.078-303-2211

アシックスグループの事業概要

アシックスグループは、2011年3月末現在、株式会社アシックスと国内外の子会社合わせて53社、5,604人で構成されており、「スポーツシューズ類」、「スポーツウエア類」、「スポーツ用具類」の3つの分野でグローバルな事業活動を行っています。



経営・財務指標

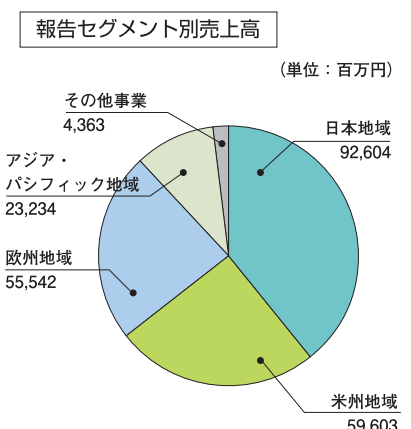
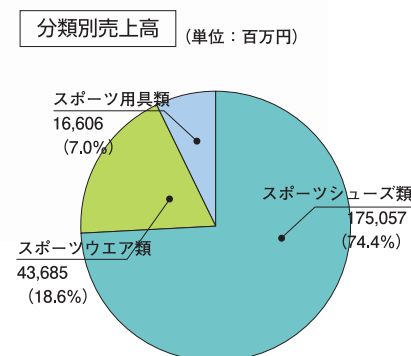
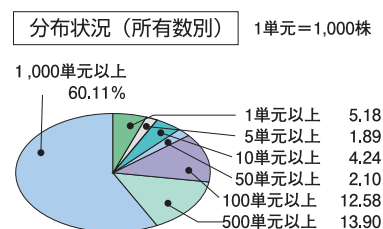
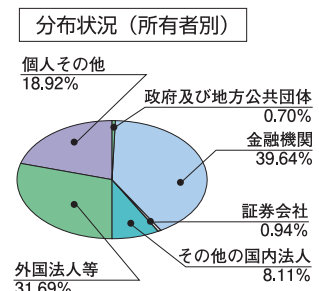


株式状況 (2011年3月現在)

発行可能株式総数
790,000,000株

発行済株式の総数
199,962,991株
(うち自己株式 10,359,131株)

株主数
11,944人



2011年版の編集方針

2010年度は、グローバルで活動するアシックス社員の共通する価値観として「アシックススピリット」及び「CSR方針」を設定しました。全社員が創業の精神を理解し継承すること、そして持続的発展が可能な社会の実現に努めることを目的としたもので、本CSRレポート内の特集にもその内容を記載しています。また、同年発行のISO26000(社会的責任)に掲げられた7つの中核主題を軸にした構成にするのと同時に、2010年版に引き続きGRI(グローバル・レポーティング・イニシアチブ)の基準を参考にしました。

対象範囲

原則として株式会社アシックスを対象にしていますが、グループ会社の活動内容も一部記載しています。

対象期間

2010年度(2010年4月1日～2011年3月31日)

前回発行日

2010年6月18日

参考にしたガイドライン

GRI「サステナビリティ・レポーティング・ガイドライン 2006(第3版)」

※GRI(グローバル・レポーティング・イニシアチブ):オランダに本部を置くNGO。国連環境計画(UNEP)の公認協力機関。

Index

トップコミットメント	03
特集：アシックスの未来への展望	05
アシックスの優先課題と ステークホルダーとの関わり	08
組織統治	09
人権・労働慣行	13
環境	16
公正な事業慣行	23
お客様への対応(消費者課題)	26
コミュニティ参画及び開発	30
GRI対照表	33
編集後記	34

会社概要 (2011年3月31日現在)

資本金 239億72百万円
従業員 1,382人(連結:5,604人)
国内従業員 3,455人 海外従業員 2,149人

【主な事業所】

本社(神戸市)*
東京支社(東京都墨田区)・関西支社(兵庫県尼崎市)
スポーツ工学研究所(神戸市)*

【株式会社アシックスと子会社】

国内:21社
海外:32社
(アメリカ・ヨーロッパ*・オーストラリア・韓国・台湾・中国ほか)
※の事業所はISO14001認証を取得しています。

アシックスホームページ

日本
<http://www.asics.co.jp/>
グローバル
<http://www.asics.com/top>



グローバル企業として説明責任を果たし

CSR経営の精度向上に努めます

「アシックスCSR方針」を策定

2010年度は、アシックスにとって大きな出来事が続いた年でした。

残念なことながら、まず特筆すべきは、年度末の3月に発生した東日本大震災です。

亡くなられた方々、被災された方々に心からお悔やみとお見舞いを申し上げますとともに、復興に向けてできる限りの支援をさせていただき所存です。

16年前の阪神・淡路大震災では、当社は国内外の皆様からご支援を賜りました。そのご恩に報いる気持ちも込め、自らの被災経験を生かした活動に取り組んでまいります。

当社事業を振り返りますと、8月にスウェーデンのアウトドア用品メーカー「ホグロフス」の買収があります。また、カナダの販売代理の経営権の取得、台湾・韓国・フィリピン・オランダ・スペインでの直営店の開店もいたしました。

ますますグローバル化が進む市場に、全世界のアシックスグループの総力を挙げて対応するための一環の施策です。

また、私たちを取り巻く社会では、かねてから注目されておりましたSR(社会的責任)のガイドライン「ISO26000」が正式発行となりました。これも、CSR経営を掲げてきた当社にとって大きな意味を持ちます。

そんな中、アシックスグループは、企業運営の根幹となる哲学・理念などを整理して「アシックススピリット」*として再定義し、全グループ社員の心の礎とするとともに、そのスピリットを基にCSR経営の方向性を明文化した「アシックスCSR方針」*も策定しました。

アシックスグループの構成員は、世界22の国及び地域の5,604人に上ります。スピリットとCSR方針の策定は、文化も言語も異なる社員が一丸となって進むための取り組みです。

スポーツ用品メーカーの使命

当社は、故・鬼塚喜八郎が青少年の育成のため「健全な身体に健全な精神があれかし」を創業哲学に築いたスポーツ用品メーカーです。

*「アシックススピリット」と「アシックスCSR方針」については、5～7ページに詳細しています。

私たちにとって、スポーツとスポーツ用品に関する自社の技術・製品・サービスによって社会の開発課題の解決に貢献することは、何よりも大切な使命であると考えています。そして、それによって得た利益を更に事業活動に生かすことが、社会と私たち企業の持続的発展につながると信じております。

例えば、環境配慮型商品もその一つです。環境問題への取り組みは、国家レベルの国際的な枠組みの面では、南北問題が絡む問題も抱え、大きな進展は見られませんが、私たち人類社会そして生物多様性も含めた地球環境にとって喫緊の課題の一つには違いありません。

地球企業市民としての責任と現在及び未来の世代に対する責任を自覚した事業運営が私たちには求められます。

アシックスは、環境配慮型商品の独自基準を設け早くから開発と普及に努めてきましたが、今後もイノベーションによる画期的商品の開発を目指すとともに、地道に全商品中の環境配慮型商品の比率を高めるものづくりを行っていきます。

その生み出した商品を安心してお使いいただくための、品質と安全に関する真摯な取り組みもメーカーとして必須の務めです。社員教育と品質管理の強化を継続して進めます。

CSR経営にはパートナーシップの構築も欠くことのできない要素です。

アシックスの商品は、企画・開発から製造・販売、更には廃棄や回収・再生まで、サプライチェーン上の様々な人や企業の手を経るライフサイクルをたどりま。

また、事業活動全般があらゆるステークホルダーの皆様との関わりによって成り立っています。

特に、市場のグローバル化に伴い、生産体制も同様にグローバル化しており、業務委託先工場は21の国及び地域に広がっています。

アシックスグループは、それぞれの相手先そしてそこで働く人々とともに発展できる関係作りを努めており、ILO基準など労働・人権に関する国際的な基準や現地法を順守

し、委託先企業や競合他社とも協業しながら、働く人の権利保護と法令順守に今後も取り組んでいきます。それは、「アシックスCSR方針」で原則として掲げる「人権尊重」、「倫理的な行動」にもつながるものです。

業界内での協業については、すでに品質・安全面で国内スポーツ用品メーカー4社との定期会議、労働・人権面では外資ブランドを含めたコラボレーション会議などに参画しているほか、TWARO(23ページ参照)などとの意見交換を進めておりますが、2010年度(2011年2月)に私自身が世界スポーツ用品工業連盟会長に就任したこともあり、更に多くの皆様との対話に努めたく思います。それによってスポーツ用品業界のCSRの推進の一助になればと願っております。

説明責任を果たし透明性を保つ

アシックスCSRレポートは、この2011年版で7号となりました。

今回は、当社のCSR活動の優先課題をISO26000で言う「7つの中核主題」(8ページ参照)に基づいてまとめてみました。当社の哲学・理念と本質的に同じ趣旨のものではありますが、国際的な枠組みに基づいて自身の活動を振り返ることは、強み、弱みを認識し、次の活動につなげるのに大変有効であると認識しております。

今後もこういった国際的な指標、先進企業の例などを研究し、独自の評価指標を更に洗練させ、より分かりやすい報告ができるよう努めます。

それが説明責任を果たす透明性の高い企業の必要条件であることは言うまでもありませんが、私たち自身のCSR経営の精度向上と、ひいては社会の持続的発展への寄与につながると考えております。

「アシックススピリット」の下、グループ一丸となり、創業哲学「健全な身体に健全な精神があれかし」の実現に努めます。

皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

代表取締役社長 CEO

尾山 基



アシックスの未来への展望

—創業の精神を継承し、持続可能な社会に向けて—

創業の精神を継承する 企業精神「アシックススピリット」



取締役常務執行役員
管理統括部長 佐野 俊之

アシックスで働く社員の数は、2011年3月31日時点で、5,604人、海外の割合は38%となりました。それぞれの社員の文化背景も話す言語も様々です。しかし、皆等しくスポーツの持つ力を信じ、より良い製品・サービスをお客様にお届けすることを目指しています。その気持ちこそが、アシックスに共通する価値観である「アシックススピリット」です。

「アシックススピリット」は「フィロソフィー」、「ビジョン」、「バリュー」の3つの部分で構成されます。

「フィロソフィー」は私たちアシックスの核となるものであり、「創業哲学」と「アシックスの理念」で構成されます。「創業哲学」には、鬼塚喜八郎の思いが込められており、アシックスの根底に流れる不変の精神となっています。そして、創業哲学に基づく私たちの存在意義が「アシックスの理念」です。スポーツを通じた社会貢献は、私たちが時代や社会環境を超えて追い求める基本姿勢です。

ASICS SPIRIT



- フィロソフィー**
創業哲学
「健全な身体に健全な精神があれかし—Anima Sana In Corpore Sano—」
アシックスの理念
1. スポーツを通して、すべてのお客様に価値ある製品・サービスを提供する
2. 私たちを取り巻く環境をまもり、世界の人々とその社会に貢献する
3. 健全なサービスによる利益を、アシックスを支えてくださる株主、地域社会、従業員に還元する
4. 個人の尊厳を尊重した自由で公正な規律あるアシックスを実現する
- ビジョン**
Create Quality Lifestyle through Intelligent Sport Technology
スポーツでつちかった知的技術により、質の高いライフスタイルを創造する
- バリュー**
スポーツマン精神
第1条：スポーツマンはルールを守る
第2条：スポーツマンはフェアプレーの精神に徹する
第3条：スポーツマンは絶えずベストを尽くす
第4条：スポーツマンはチームの勝利のために闘う
第5条：スポーツマンは能力を高めるために常に鍛錬する
第6条：スポーツマンは、「ころんたら、起きればよい。失敗しても成功するまでやればよい。」

スポーツによる青少年の健全な育成を通じて社会の発展に貢献したい——創業者の故・鬼塚喜八郎が戦後の荒廃した日本で抱いたこの思いから創業し、アシックスは60年余りを歩んできました。

今日、アシックスの製品は広く世界の国・地域の方々に使用されています。それに伴い、アシックスを構成する社員の出身国や文化背景も多様化し、社員が同じ価値観を共有することが重要となってきました。

また、社会全体では地球温暖化や資源の枯渇など、様々な課題が見られます。限られた資源の中で、将来世代の生活を損なうことなく今の社会ニーズを満たしていくこと、すなわち「持続可能な発展」という考え方が非常に重要であり、社会全体の目標となっています。

アシックスは、創業の精神を受け継いだ企業精神（「アシックススピリット」）と、それに基づいて社会的責任を果たすためのCSR方針を新たに明文化しました。

ますますグローバル化する社会の一員として、持続的発展が可能な社会の実現に努めます。

「**ビジョン**」は、アシックスが目指す姿です。（2010年11月改定）

私たちはスポーツに軸足を置きながらも、人々の生活の場で幅広く貢献していきます。私たちは過去から蓄積してきたスポーツテクノロジーを基に今後も技術革新を継続し、製品・サービスを通してお客様に質の高いライフスタイルを創造していきます。

「**バリュー**」は、アシックスの行動指針です。その基となっている「**スポーツマン精神**」は、スポーツに関わるアシックスらしい行動のよりどころとなるものです。それはスポーツの場面だけではなく、日々の業務はもちろんのこと、日常生活でも考え方や行動の指針となります。

私たちは、この「アシックススピリット」を掲げ、その下に集い、そして継承していきます。

持続可能な社会に向けて —アシックスの理念に基づく「アシックスCSR方針」—

私たちは持続的発展が可能な社会の実現に貢献するため4つの「CSR原則」と「CSR目的」からなる「CSR方針」を策定しました。私たちは「CSR原則」を順守した上で、「アシックスの理念」に基づく「CSR目的」に向かって事業活動を行います。

●アシックスの理念1について

私たちの最大の社会貢献は、技術革新に努め、お客様のニーズに応える安全で高品質な製品・サービスを提供し、質の高いライフスタイルを創造することです。また、アシックスの製品は自社工場の他に多くの協力工場に委託して製造されています。私たちのあらゆる活動が持続可能な社会の実現に貢献するためには、協力工場とそこで働く従業員の皆様と社会的責任に関する価値観を共有していくことが重要です。

●アシックスの理念2について

また、私たちは自らの事業活動が環境に与える影響を認識し、率先して地球環境保全に取り組みます。特に製品については、環境に配慮した材料・工程の選択により、材料調達から廃棄に至るライフサイクル全体で環境負荷の低減に努めます。また、スポーツによる地域振興や、人々の健康的な生活に役立つ取り組みを通じて、

社会の活性化に貢献していきます。

●アシックスの理念3について

更に、私たちは公正な事業活動に基づいて得られた利益をステークホルダーの皆様にも適正に還元し、経済的側面でも社会に貢献していきます。

●アシックスの理念4について

最後に、社会的責任が効率的かつ効果的に果たせるよう自らの組織を整備し、社員とともに成長できる、そのような企業を目指します。

今日、社会のネットワークが発達して、世界の様々な場所に物や情報を簡単に届けられるようになり、企業を始めとする様々な組織が社会に与える影響もますます大きくなってきました。アシックスがスポーツを通してだけでなく、あらゆる側面で持続的発展が可能な社会の実現に貢献するためには、アシックスへの期待、求められる役割をステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを通して学び、理解する必要があります。

アシックスは、持続的発展が可能な社会の実現と質の高いライフスタイルの創造に向けて、社会とともに明るい未来を築いていきたいと考えています。

●「アシックス CSR 方針」の構成

社会の持続可能な発展 Sustainable Development of Society

アシックスの理念に基づくCSR目的

製品とサービス

アシックスの理念1.

スポーツを通して、すべてのお客様に価値ある製品・サービスを提供する

CSR目的:

- 技術革新を行い、お客様のニーズに応える製品・サービスを提供し、質の高いライフスタイルを創造します。
- お客様に提供する製品・サービスが安全で高品質であるよう、材料から販売に至るバリューチェーンのすべてで管理に努めます。
- 協力工場を始めとする製品提供に関わるサプライチェーンに対し、CSRの価値観を共有することを求めます。

公正な事業と利益の還元

アシックスの理念3.

健全なサービスによる利益を、アシックスを支えてくださる株主、地域社会、従業員に還元する

CSR目的:

- 公正な競争と適正な取引を通じて、利益を創出します。
- 株主、地域社会、従業員に利益を適正に継続的に還元します。

環境と社会貢献

アシックスの理念2.

私たちを取り巻く環境をまもり、世界の人々とその社会に貢献する

CSR目的:

- 製品の設計や製造工程を始めとする事業活動のすべてにおいて、環境負荷の低減に努めます。
- スポーツ文化の発展や人々の健康的な生活につながる活動等を通じて、地域や世界に広がるコミュニティの振興に貢献します。

ガバナンスと従業員

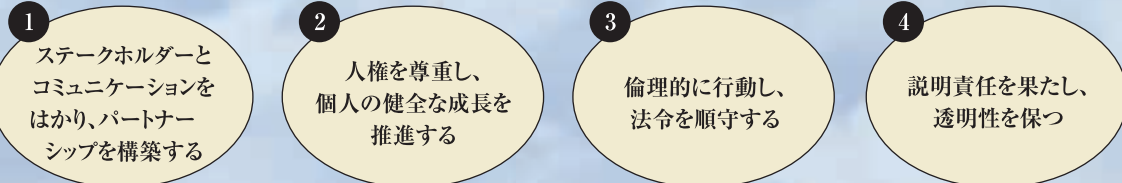
アシックスの理念4.

個人の尊厳を尊重した自由で公正な規律あるアシックスを実現する

CSR目的:

- 自らの意思決定と事業活動が適切かつ円滑に遂行されるよう、組織体制を整備します。
- 多様性を受け入れ、従業員一人ひとりがお互いを尊重し、個性と創造性を発揮できる環境を整え、各個人の成長とともに企業の成長を目指します。

CSR原則



ステークホルダーの声に耳を傾け、対話し、それぞれの利害と当社への期待を理解し、尊重します。また、それらの活動を通して、互いの信頼関係と両者に有益なパートナーシップを構築します。

あらゆる国、文化、状況において、また事業活動のすべてにおいて、人権を尊重します。更に、創造的で熱意ある活動を通じて、個人の健全な成長を推進します。

公平、誠実に事業活動を行います。また、各国、各地域の法令や規則を順守し、併せて国際行動規範を尊重します。

自らの意思決定や事業活動と、それが社会や環境に与える影響を適切に報告します。また、それらの情報を、適切かつ十分な範囲で、明確かつ正確に開示します。

Voice

「アシックススピリット」を共有していくために

全世界のアシックスグループ社員を対象に、「アシックススピリット」を共有していくための取り組みを進めています。

2010年度は、グループ内公用語である日本語・英語のほか、中国語や韓国語などにも翻訳し、カードにして全員に配布しました。また、イントラネット上に専用のウェブサイトを開設しました。

ウェブサイトには、事務局からの情報だけでなく、社員の自己紹介や体験談なども掲載し、グループ内の一体感を培うようにしています。

今後も、グローバル規模の活動と地域に合わせた活動を効果的に組み合わせながら、チームワークの向上を図ります。



全社員に配布した「アシックススピリット」カード

アシックスの優先課題とステークホルダーとの関わり

— [ISO26000との関連を検証] —

私たちは、様々な機会を通じてステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを図り、いただいたご意見を事業活動に反映させています。2011年度は当社

のCSRの優先課題をISO26000が示す7つの中核主題の構成でまとめています。(本CSRレポートでは、人権と労働慣行を1つにまとめています)



■CSRの優先課題 ※表記順はISO26000に準じています。

コーポレート・ガバナンス	企業価値を継続的に高め、すべてのステークホルダーから信頼を得るために、アシックス行動規範の適切な運用やコンプライアンス施策の強化などにより、コーポレート・ガバナンスの充実を図っています。
従業員満足	すべての従業員が能力を発揮し、仕事と生活の両立ができる職場作りを目指します。
環境保全	地球環境を未来に引き継いでいくため、事業活動に伴う環境負荷の低減や環境に配慮した商品の研究・開発を行い、持続的発展が可能な社会の実現に貢献していきます。
サプライチェーン管理	作り手の満足が良い商品につながり、良い商品がお客様の満足につながるという考えの下、サプライチェーン全体にわたって環境、人権、労働、企業倫理などへの配慮と改善に努めています。
安全品質と顧客満足	製品の安全がより強く求められる中、お客様に安全かつ快適にお使いいただくため、企画から開発、設計、生産、出荷まで、徹底した品質管理を行っています。
個人情報管理	お客様の財産である個人情報を大切に管理することを重要な責務と考え、適切な管理・保護に取り組んでいます。
社会貢献	スポーツ文化の普及に努めるなど、良き企業市民として社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。

組織統治 コーポレート・ガバナンス

健全で透明性の高い経営に努めています

企業価値を継続的に高め、すべてのステークホルダーから信頼を得るために、アシックス行動規範の適切な運用やコンプライアンス施策の強化などにより、コーポレート・ガバナンスの充実を図っています。

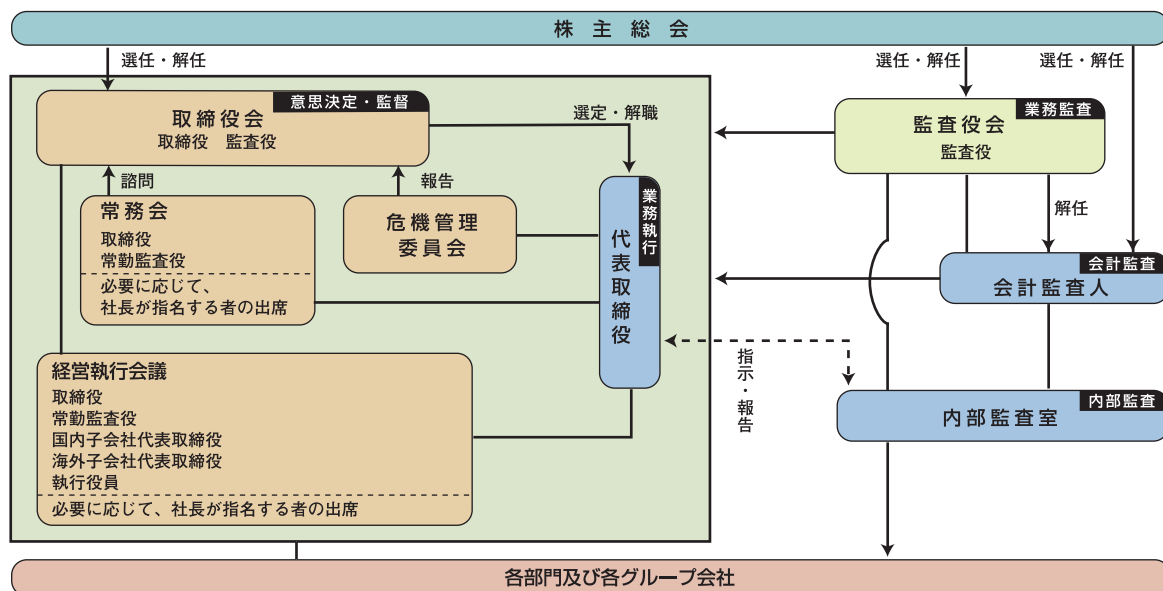
コーポレート・ガバナンス体制の概要

アシックスは、重要な意思決定事項については、株主総会で選任された取締役で構成される取締役会に付議または報告することを、取締役会規程及びその他関連規程に定めています。

また、取締役会の決議事項その他重要事項の事前審議を行うため、常務会を設置しています。当社グループの全社経営戦略に関わる重要事項の検討・決定と業務執行状況の報告を行うため、国内経営執行会議、グローバル経営執行会議を定期的に開催しています。それらの会議は、取締役、監査役、執行役員及び各子会社代表取締役などが適宜出席しています。

当社は監査役会設置会社であり、監査役5人のうち3人が社外監査役です。監査役は、毎月開催される取締役会及び監査役会に出席するほか、必要に応じて取締役との会合を持ち、また、重要書類、データベースの閲覧などにより経営全般に関する情報を収集しています。監査役は、内部監査部門に所属する従業員に、監査業務に必要な事項を命令することができます。また、監査役と内部監査部門は、監査に必要な情報の交換を行っています。なお、監査業務を行う従業員は、その命令の範囲に属する業務に関して取締役の指揮命令を受けないこととし、人事異動・人事考課・懲戒処分は、監査役会の事前の同意を得るものとしています。

コーポレート・ガバナンス体制



※コーポレート・ガバナンス体制を強化するため、社外取締役2人を含む取締役8人の選任を2011年6月24日開催の株主総会に付議します。

コーポレート・ガバナンスの基本的な考え方

コーポレート・ガバナンス報告書から抜粋(原文)

1. 基本的な考え方

当社グループは、企業価値を継続的に高め、株主をはじめ、すべてのステークホルダーからさらに信頼される会社となるために、スピードある透明性の高い経営を実現するためのコーポレート・ガバナンスを目指し、その中で経営管理体制の整備を行うとともに、企業経営に関する監査機能・内部統制の充実、コンプライアンスの徹底、経営活動の透明性の向上などに努め、株主の視点を経営に反映させることを心がけております。

内部統制^{※1}

2010年度は、金融商品取引法の「内部統制報告制度(J-SOX)」に基づいた経営者評価を実施して、監査法人による内部統制監査で「無限定適正意見」^{※2}を得るこ

と、また、その過程を通して関係部門の業務の効率化を図ることを目標としました。その目標を達成するために実施計画を立案し活動に取り組みました。

2010年度の実績

計画	実績	評価	課題	改善策
内部統制報告制度に基づき、財務報告の信頼性確保に努めるとともに、組織目標の達成を阻害する要因であるリスクの抽出と評価、内部監査、業務プロセス管理の明確化等、様々な取り組みを強化し、ガバナンスの水準を高める努力をします。	アシックス本社を含む内部統制の対象となる子会社、グループ会社に関する「内部統制報告書」を作成し、監査法人から平成23年3月31日現在の財務報告に関わる内部統制について重要な欠陥は発見されないとの監査結果を得ることができました。	2010年度の最終評価について、監査法人から「無限定適正意見」を得る見込みとなっています。	内部統制維持管理組織に基づき、管理部署が設定されていますが、販売管理や在庫管理などの業務プロセスを担当する各現場では、内部統制の整備や運用に対して是正を必要とするプロセスがありました。	各業務プロセスの内部統制担当者に対する内部統制業務の意識付けを更に行い、整備、運用評価が問題なく実行されるよう推進していきます。

2011年度は、2010年度の経験を生かし、中期経営計画「アシックス・グロース・プラン(AGP)2015」にのっとり、内部統制強化のためにアシックスグループ全体の意思決定や業務プロセス等の維持管理体制を強化し、

継続して「無限定適正意見」を得ることを目指します。更に、内部統制評価業務や関係各部門の業務プロセスの効率化を図ります。

中期経営計画を新たに策定

「アシックス・グロース・プラン(AGP)2015」

「アシックス・グロース・プラン(AGP)2015」は、グローバルで持続的な成長を図り、2015年度の連結売上高4,000億円(現時点の為替レートに基づく円換算額)以上を目指すアシックスグループの新たな中期経営計画です。

これまで当社は、「アシックス・レボリューション・プラン(ARP)」(2001年10月策定)と、続く「アシックス・チャレンジ・プラン(ACP)」(2005年10月策定)を基に、改革とグローバルへの挑戦に取り組んできました。ACP制定当初目標の2010年度連結売上高3,000億円の達成は経済情勢や円高等の影響もあり未達となりましたが、海外売上高を大きく伸ばすことができました。その成果を踏まえて、更にグローバル化が進展する経営環境に即応して持続的に成長していくため、今回のプラン策定となりました。

「アシックス・グロース・プラン(AGP)2015」の実施に当たって、企業精神を「アシックススピリット」として新たに体系化し、全グループの共通の基盤としました。これは、ARP、ACPの中で体系化してきた創業哲学、アシックスの理念、ビジョンに、新たに行動指針としてのバリューを加えたものです。また、ビジョンを「スポーツでつちかした知的技術により、質の高いライフスタイルを創造する」としました。

AGPの基本方針である「グループ全体で、お客様起点の活動を徹底する」の下、製品戦略「革新的な価値の提供とお客様ニーズ対応の融合」、組織戦略「グローバル組織の構築」を進めていきます。

詳しくは下記のサイトをご覧ください。

<http://www.asics.co.jp/corp/info/C>

※1 内部統制

「事業目的に沿って会社を組織的に運営していくための経営管理体制」のことで、「業務の有効性及び効率性」、「財務報告の信頼性」、「事業活動に関わる法令等の順守」、「資産の保全」という4つの目的を達成するために業務に組み込まれ、組織内のすべての者によって遂行される仕組みのこと。

※2 「無限定適正意見」

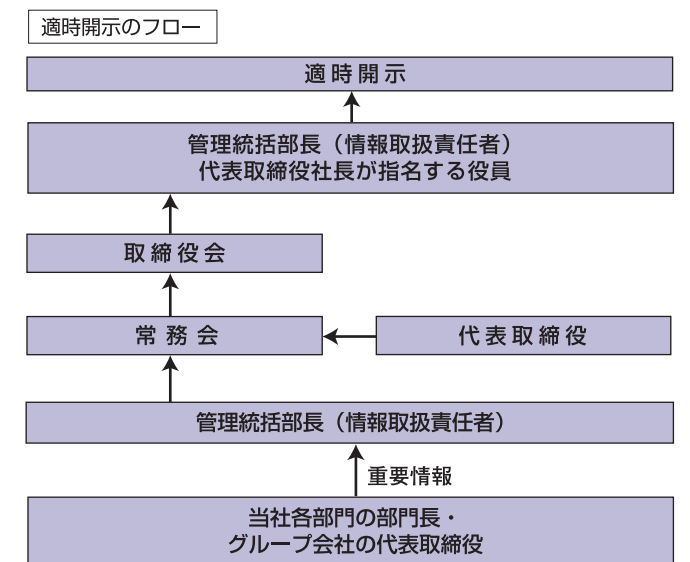
経営者が決定した評価範囲、評価手続き、及び評価結果が適正に内部統制報告書に表示されている場合に監査法人が表明する意見のこと。

株主・投資家とのかかわり

経営の透明性を確保するために 適時開示体制

アシックスは、投資家への適時・適切な会計情報などの開示が、健全な証券市場の根幹をなすものであることを十分に認識するとともに、常に投資家の視点に立った迅速、正確かつ公平な情報開示を適切に行えるよう社内体制の充実に努めており、今後も真摯な姿勢で臨みます。

なお、証券取引所に開示した情報は、速やかに当社ホームページに掲載しています。



当社をよく理解していただくための取り組み コミュニケーション

■株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

当社の企業姿勢をよく理解していただくためにアシックス通信（日本語）を半期に1回、アニュアルレポート（英語）を年に1回発行しています。

またインターネットの当社ホームページには「投資家情報」として有価証券報告書を始めとする情報を掲載しています。



■マルチステークホルダーとのコミュニケーション

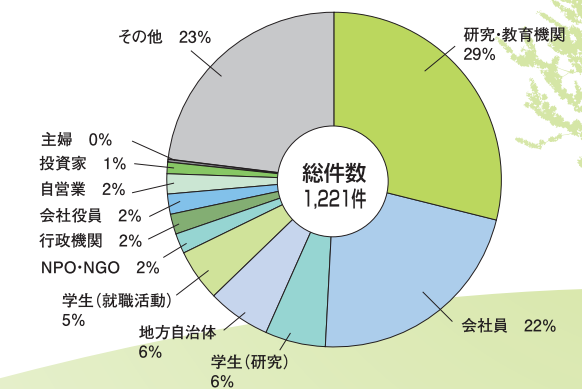
多様なステークホルダーの皆様が当社をよく理解していただくため、企業の経済的な側面の情報だけでなく、環境と社会的側面についても記述したCSRレポートを年に1回発行しています。



■インターネットを通じてのCSRレポートの配布

当社は「エコほっとライン」のホームページに登録企業として参加し、ステークホルダーの皆様がウェブサイトから当社の最新CSRレポートを無償で入手できるようにしています。

インターネットを通じての配布先



内部統制評価から業務改善提案まで 内部監査

2010年度、内部監査室は内部統制評価業務に加え、アシックスのグループ会社を対象に国内7社、海外4社の合計11社について業務監査を実施しました。

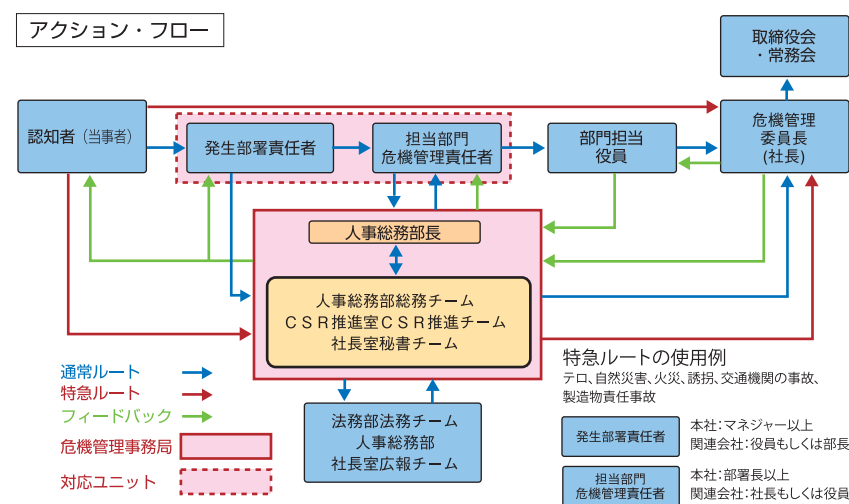
国内についてはアパレル事業と販売子会社を中心に、

海外については主にアジア地域の販売子会社に、問題点の指摘や業務の効率性向上のための改善提案を行いました。

2011年度も、被監査部門の業務改善にもつながる付加価値の高い監査を実施します。

危機管理体制

アシックスグループは、危機が発生した場合の損失を最小限に抑えることを目的に、危機の発生時もしくはその可能性が予測される際に基本的な行動が取れるよう危機管理規程を制定し、次の体制を整備しています。



●当社グループの役員及び従業員が危機項目を認知した際には、危機管理規程に定められた方法及び経路で危機管理委員長（社長）に報告するとともに、取締役会に報告する。

●危機が発生した場合、危機管理規程にあらかじめ定められた危機レベルに応じて、危機管理委員長が危機対策本部の設置及び危機対策本部長の任命を行う。危機対策本部長は、危機対策方針等の決定及び対外交渉等を統括し、対策・改善策等を実施する。

●危機管理委員会は、危険の定期的な洗い出し、予知・予防、教育等の立案・実施及び危機管理・危機対策の評価などを行い、危機管理委員会事務局は、

グループ全体のリスクを網羅的、統括的に管理し、内部監査部門は定期的に危機管理状況を監査する。

2009年4月、新型インフルエンザの世界的な流行の可能性がWHOから発表され、事業継続と社会責任の見地から防疫体制を全社的に敷きました。

この対応の経験を生かし、他のリスクについても点検し、危機管理体制を強固なものにしていきます。

知的財産保護

ビジネスのグローバル化に伴い、当社の知的財産権を侵害する行為も増加しています。ブランド価値が損なわれるのを防ぐための知的財産保護活動をグローバルで展開しています。

近年、発展途上国での模倣品製造や世界各地での模倣品販売が多発しており、その監視と摘発を強化しています。

2009年度からは、模倣品被害の現状とブランド価値への悪影響について社内の認識を高めるため、模倣事

例を展示する場を定期的に設けています。会場では、当社がどのような対策を講じているかについても紹介しています。

模倣品への対策を継続し、お客様に安心して当社の商品を買っていただけるよう努めます。



社内での模倣品の展示



人権・労働慣行 従業員満足

働きやすい職場作りを目指しています

すべての従業員が能力を発揮でき、仕事と生活の両立ができる職場作りを目指します。制度面の整備のほか、従業員参加型の取り組みも進めています。

アシックス行動規範^{※1}

「アシックスCSR方針」の制定に伴い、「アシックス行動規範」を英語と日本語で改めて制定しました。これは、全アシックスグループに適用されます。

アシックスは、「アシックススピリット」と「アシックスCSR方針」を経営の根底に置き、社会的責任を果たす企業を目指しています。そしてそれは、当社グループを構成するすべての役員と従業員の行動が高い水準にあってこそ成し遂げられるものであると考えます。

スピークアップライン^{※2}

当社グループを対象としたコンプライアンス相談窓口「スピークアップライン」を設置し、役員及び従業員が行動規範を逸脱する行為やコンプライアンスに関する重要な事実を発見した場合に、専用メール、電話、手紙で連絡・相談できる体制を敷いています。これにより事態の迅速な把握及び是正を図ります。

なお、この窓口への通報者が不利益な取り扱いを受けないよう配慮されています。

アシックス行動規範は、当社グループの構成員が日々の活動と、そこで求められるあらゆる場面で順守しなければならない基本的な事項を定めています。

その趣旨の徹底を図るため、コンプライアンス担当部署を設置しています。同部署がコンプライアンスへの取り組みを総合的、横断的に統括し、役員及び従業員の適正な業務運営を補佐するとともに、研修などを通じた教育、指導を行いました。2011年度も引き続き研修を実施する予定です。

コンプライアンス活動（継続実施事項）
社員がいつでも確認できるよう社員手帳の別冊に「行動規範」、「個人情報管理方針」、「スピークアップラインについて」を記載。
新規学卒採用者（アシックスグループを含む）の研修（参加者36人）でCSR教育の一環として、コンプライアンス及びセクハラ・パワハラに関する教育を実施。（2011年3月30日）
中途採用者の研修（参加者20人）でCSR教育の一環として、コンプライアンス及びセクハラ・パワハラに関する教育を実施。（2010年6月4日）
中途採用者の研修（参加者21人）でCSR教育の一環として、コンプライアンス及びセクハラ・パワハラに関する教育を実施。（2010年12月3日）

※1 アシックス行動規範

アシックスは、経営の基本的考え方を示した「アシックススピリット」と「アシックスCSR方針」を根底におき、すべての人々から受け入れられ尊敬される企業を目指しています。それは、アシックスグループを構成するすべての役員と従業員の行動が高い水準にあってこそ成し遂げられるものです。アシックス行動規範は、アシックスグループの構成員が日々の活動において、また、そこで求められる無数の判断において、遵守しなければならない基本的な事項を定めています。アシックスグループのすべての役員と従業員はこれを読み、理解し、遵守しなければなりません。

1. お客様への誠実な対応

- 1) 革新的な価値の創出とニーズへの対応
- 2) 安全・安心への配慮
- 3) 商品に関する適切な表示・説明・広告
- 4) プライバシーの尊重

2. 社会および環境との適正な関わり

- 1) 反社会的勢力との関係拒絶
- 2) 法令遵守と地域文化の尊重
- 3) スポーツ文化と地域社会への貢献
- 4) 環境負荷の低減

3. 公正な事業活動

- 1) 規律ある事業活動
- 2) 談合・カルテル・ダンピングの禁止

3) 節度ある接待・贈答

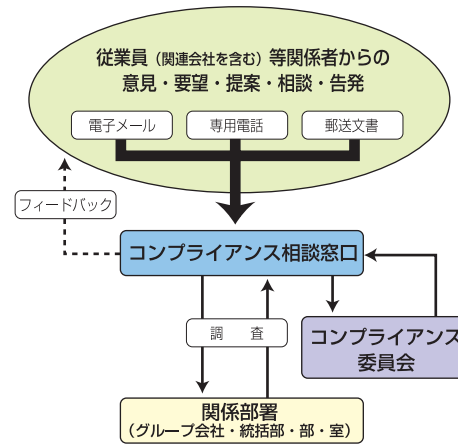
- 4) 取引先との適正な関係
- 5) 知的資産の尊重
- 6) 会社財産の保護
- 7) 守秘義務
- 8) 公私の峻別
- 9) インサイダー取引の禁止
- 10) 適切な企業広報と情報開示

4. 健全な職場の維持

- 1) 健康的で安全な職場環境
- 2) 差別の排除
- 3) ハラスメントの禁止
- 4) プライバシーの尊重

附則：この規範は2011年3月11日より実施する。

※2 スピークアップラインのフロー



詳しくは、下のWebサイトをご覧ください。
<http://www.asics.co.jp/corp/info/D>

各種制度の充実

ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて「労働時間に関する総合プログラム」を推進

2007年から「労働時間に関する総合プログラム」を推進しています。これにより労働時間に関する法令を順守し、ワーク・ライフ・バランスに積極的に取り組む先進企業となることを目指しています。

2010年度は、時間単位で取得できる年次有給休暇を導入しました。子どもの看護や自己啓発の時間として、多くの従業員に利用されました。

公平性、透明性、納得性のある制度に多面評価制度や複線型人事制度など

部下・上司・同僚が管理職を評価する多面評価制度や、専門性の高い研究職及び技術職の働き方にも対応する複線型人事制度、必要な人材を社内から募る社内公募制度、希望分野を従業員自らが申し出るエント

リー制度、異動や仕事に対する自分の考え方などを申し出る自己申告制度などの導入により、柔軟性のある人材活用を図っています。

グローバルに活躍できる人材を育成 海外実務研修制度

若手従業員を中心に海外関係会社及び海外事業所に1年間派遣する海外実務研修制度を導入しており、2010年度は2人を派遣しました。また、アシックス

ヨーロッパB.V.からも、2007年度以降毎年2人の研修生を受け入れています。

選抜制グローバル経営研修 アシックスビジネスリーダーズスクールの開設

経営幹部候補を早期かつ継続的に育成する研修制度を設けました。市場環境の変化や急速に進むグローバル化に対応できる人材を中長期的に供給できる基盤作りを図っています。この制度では、日本国内で経営能

力と英語力を高める研修を8～10カ月受けた後、若手社員は海外研修、中堅社員は海外赴任を含めた人事異動を経験することで、グローバル視点での経営力に身に付けられるようにしています。

従業員の子どもによる職場訪問 「子ども参観日」の実施

親が自分の働く姿を実際に見せることで、子どもに働くことの大切さや尊さについて知ってもらう機会とするためのイベントで、毎年、夏休みに企画しています。

従業員にとっても、家族とのコミュニケーションのための良いきっかけとなっています。

法律を上回る休暇制度

- 育児休業制度**
子どもが2歳に達する日まで取得可能です。（法律では最長1年6カ月）
- 介護休業制度**
通算で1年間取得できます。（法律では最長93日）
- 育児短時間勤務制度**
子どもが小学校6年生を終了するまで、所定労働時間を短縮できます。（法律では小学校就学前までが努力義務）
- 短時間フレックスタイム制度**
育児・介護を目的とする場合は、所定労働時間を1

- 時間短縮した上で、フレックスタイム制度も利用できます。
- 子の看護休暇制度**
子どもの病気等に対応するため、小学校6年生の終了時まで1年間に10日間の休暇が取得可能です。（法律では1人目は5日、2人目は10日）
- 介護休暇制度**
要介護状態の対象家族に対して1人目から1年間12日の休暇を取得可能です。（法律では1人目は5日、2人目は10日）

- 積立有給休暇制度**
法律では、2年で時効消滅してしまう年次有給休暇を80日まで積み立てることができる制度です。育児・介護・看護及び不妊治療のために利用可能です。
- ならし保育制度**
保育所に入所することになった子どもが保育所に慣れるまで、最大1カ月まで取得できる休暇制度です。



●環境
環境保全

地球環境を守る取り組みを進めています

地球環境を未来に引き継いでいくため、事業活動に伴う環境負荷の低減や環境に配慮した商品の研究・開発を行い、持続的発展が可能な社会の実現に貢献していきます。

2010年度の振り返りと今後の課題

環境管理責任者 取締役常務執行役員・管理統括部長 佐野 俊之

地球温暖化や資源の枯渇など、環境問題は世界の大きな課題となっています。

アシックスにとっても、それらの問題は、事業に大きな影響を与えるものであり、持続可能な発展を実現するために、企業として真摯に取り組みなければならない課題であると認識しています。

2010年度は、引き続き、事業活動を通じた省資源、

省エネルギー、環境に配慮した材料選択、工程選択といった活動をしました。

今後も環境問題の改善と、持続的発展が可能な社会の実現に貢献していきます。また、当社の環境活動がステークホルダーから十分に認知されるよう積極的に情報開示をするとともに、環境配慮型商品の開発などの環境保全活動を進めていきます。

国内グループの活動

本社を中心に、ISO14001に基づく環境マネジメント*を実施しています。

2010年度は、以下の目標のほか、カーボンフットプリント（CFP）やマテリアルフローコスト会計

2010年度の目標と結果

目的	2010年度の目標	2010年度の結果
環境配慮型商品の拡大	環境配慮型商品の売上高占有率20%	売上高占有率27.0%
CO ₂ 排出量の削減	CO ₂ 排出量 2007年度比 5%削減	2007年度比 0.5%増加

(MFCA)、ライフサイクルアセスメント(LCA)、環境配慮型設計(DfE)の手法を導入して環境負荷を定量的に測定し、その削減を検討しました。

環境配慮型商品の拡大については、目標を達成しましたが、CO₂排出量については、気候要因による冷暖房期間の長期化、施設・設備の増加などによって増加し、目標を達成できませんでした。

明確な目標を掲げて更に改善

今後の課題

2011年3月、「社長による見直し会議」(21ページ参照)で、中期目標の継続が決定されました。また、環境情報の積極的な発信・開示と、環境配慮型商品の強化が指示されました。

今後、海外事業所を含めたより多くの情報発信・開示を目指すほか、強みである技術力を生かし、環境配慮型商品の開発がすべての分野で進むよう努めます。(それぞれの活動の詳細については17~22ページを参照)

※ 環境マネジメント

●アシックスグループは、PDCAサイクルに基づいて環境活動の継続的改善を進めるために、国内ではアシックスの本社、スポーツ工学研究所、株式会社ニシ・スポーツで、環境マネジメントシステム「ISO14001」の認証を取得しています。マネジメントシステムを導入することで、当社事業活動の環境影響、リスク、関連法規制の特定、活動目標やアクションプランの策定と運用、また、活動結果の

自己評価、確認・改善を行う仕組みを構築することができました。

●海外事業所では、アシックスヨーロッパB.V.が2010年3月にISO14001の認証を取得しました。アシックスドイツGmbH他でも、同認証の取得作業を進めています。

●国内では、グループ会社を含めた目標管理を実施し、環境マネジメントを進めています。今後は、海外グループ会社を含めた環境マネジメントを目指して改善していきます。



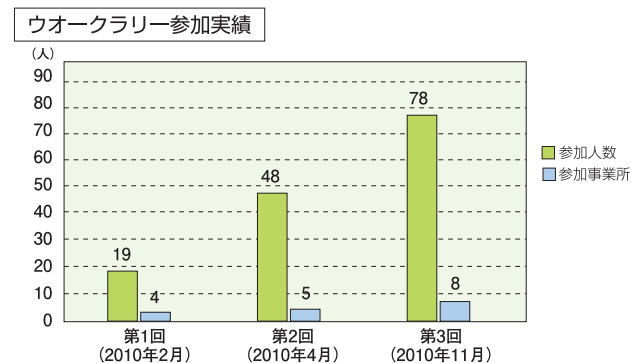
ISO14001登録証

カラダとココロの健康作り

体と心と職場環境の改善 ウォーキングによる健康作り

2010年2月から開始したウォークラリー。真夏を避け、春・秋・冬と計3回開催しました。これは参加者それぞれが期間中に歩数計を身に付け、歩数を記録するというイベントです。元々運動習慣がない参加者にももちろんのこと、入社以来スポーツをしていない参加者にもスポーツ用品メーカーの従業員として運動の効果を実感してもらいたい、という思いから企画しました。

アンケートによると、平均歩数は参加前の7,000歩余りから、1万歩超に増加し、「身体が軽くなった」、「体力がついた」という意見がありました。「体重が減った」という回答者も24%ありました。そして、「睡眠の質が改善した」31%、「ストレスが解消された」26%もあり、身体だけでなく心にも効果があることが分かりました。他にも、「毎日職場で『どのくら



い歩いた?』と声を掛け合うことで会話も増えた」というように、コミュニケーションにも一役買っていることが分かりました。職場の雰囲気をもよほすことは、仕事の円滑化にもつながります。2011年度も従業員の体・心・職場環境に良い効果を生み出す健康増進プログラムを企画しています。

職場でのラインケアも強化 全員健康面談

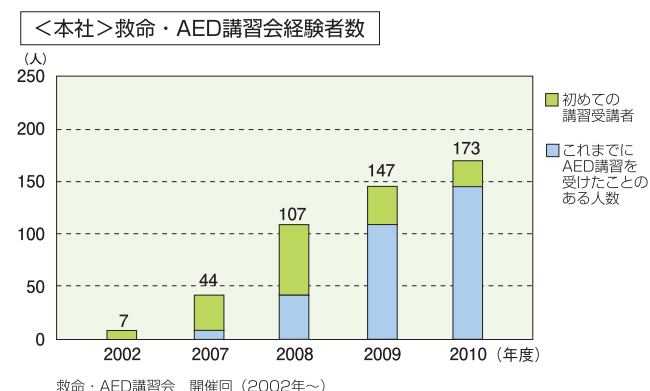
健康推進室の看護師・保健師が全従業員一人ひとりと面談する「全員面談」を2008年度から実施しています。2010年度は健康診断結果をともに確認しながら、食事・飲酒・運動・喫煙・睡眠・ストレス・仕事内容について本人と話し合っ健康上の目標を立てるようになりました。生活習慣病の可能性がある場合、食事や運動だけでなく、仕事やストレスについても評価する必要があり、その結果を自らが認識して目標(健康課

題)を掲げることは、生活習慣・検査データの改善に効果があります。

また、診察結果に問題のない人にとっても、生活習慣を見直し、仕事・ストレスについて話し合い、自分自身が現状を再認識することは、健康習慣の改善やストレスの解消につながります。今後も全員面談を継続して実施していきます。

身近で起こる「もしも」への備え AEDを使った市民救命士講習会

AED(自動体外式除細動器)の公共施設などでの設置が進み、除細動を受けた人の社会復帰率が上がったと言われます。本社などで実施していた市民救命士講習を全社に広げ、社会にも貢献できる社員を育成していきます。



本社での市民救命士講習会

重点項目 2010～2012年度 中期環境目標

アシックスの事業であるスポーツ用品の製造・販売を通じて環境問題の改善に貢献していくことと、近年の主要な環境問題である地球温暖化問題に取り組むことを主眼に、以下の2項目を国内グループの2010年度

から2012年度の目標としました。
中期目標は、ステークホルダーの要望、環境問題の状況を考慮し、年に1度見直しています。

2010～2012年度 中期環境目標

2012年度までに環境配慮型商品の売上高占有率を30%にする ※海外グループでの売上高占有率を把握する。	2010年度	環境配慮型商品の売上高占有率 20%
	2011年度	環境配慮型商品の売上高占有率 25%
	2012年度	環境配慮型商品の売上高占有率 30%
2012年度のCO ₂ 排出量を2007年度比7%削減 ※海外グループでの排出量を把握する。	2010年度	CO ₂ 排出量 2007年度比 5%削減
	2011年度	CO ₂ 排出量 2007年度比 6%削減
	2012年度	CO ₂ 排出量 2007年度比 7%削減

マネジメントシステムの運用で継続的に改善 2010年度の環境目標と達成状況

環境マネジメントシステムISO14001に基づき、2010年度はおおむね目標を達成しました。下表はISO14001認証を取得している本社、スポーツ工学研究所での目標達成状況です。(一部、国内グループの目標です。)

2010年度は、多くの項目で目標を達成しましたが、部署や事業所ごとに達成度にばらつきがありました。優良事例の共有などを進め、全体の活動内容が向上、改善されるよう努めていきます。

2010年度環境目標と実績・評価

評価の基準：達成率100%以上... ◎
100%未満... ⊙

項目	2010年度目標	2010年度実績	評価	関連ページ	
商品開発	・環境に配慮した商品、サービスの提供	・環境配慮型商品の研究開発 新規開発338点	・新規開発409点	◎	P19～20
	・2012年度までに環境配慮型商品の売上高占有率を30%にする ※国内売上高	・環境配慮型商品の売上高占有率20%	・売上高占有率27.0%	◎	
情報公開	・環境情報の公開、アピール	・ウェブ、カタログ、展示会、広報、大会などを通じた環境情報の公開、アピールの実施	・ウェブ、カタログ、展示会でエコプランマーク商品を掲載、展示	◎	—
工場管理	・委託先工場での環境配慮管理	・環境配慮型接着剤の採用推進 ・委託先工場の環境配慮管理調査	・接着剤採用率43.2%	◎	—
CO ₂ 削減	・2012年度のCO ₂ 排出量を2007年度比7%削減 ※国内グループの目標として取り組む	・CO ₂ 排出量2007年度比5%削減	・2007年度比0.5%増加	◎	P18
教育・啓発	・環境啓発、教育の実施	・アシックスグループでの環境啓発、教育の実施	・4事業所でセミナーを実施	◎	—

アシックス環境方針

2001. 8.22制定 2003. 2. 1改定 2005. 4. 1改定

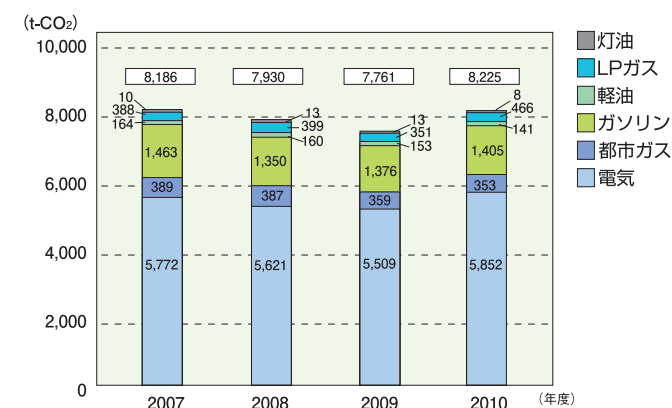
- 理念
アシックスは、環境保全活動が企業の重要な社会的責務の一つであることを認識し、地球規模での持続的発展が可能な社会を実現するために行動する。
- 方針
(1) アシックスグループにおける環境マネジメントシステムを拡大、整備し、権限と責任を明確にすると共に、地球規模での環境保全を推進する。
(2) あらゆる企業活動において、省資源、省エネルギー、廃棄物の削減、グリーン購入、汚染防止など地球環境への負荷の低減に取り組む。
(3) 企業活動において、あらゆる国や地域での環境関連の法律、規制、協定などを遵守するとともに、より一層の環境保全に努める。
(4) あらゆる商品及びサービスにおいて、企画段階から環境負荷の低減を考慮した商品作り・研究開発に努める。
(5) 環境監査を実施することにより、環境マネジメントの継続的改善を図り、企業の社会的責任を果たす。
(6) アシックスグループ内外の広報活動、環境教育などの機会を通じて環境保全に関するグループ全従業員の意識の向上に努める。
(7) 企業の社会的責任の一つとして、環境保全活動の取り組み状況を積極的に情報公開し、ステークホルダー（利害関係者）とのコミュニケーションを図る。

2007年度比5%減を目指すも増加 CO₂排出量削減の状況

2007年度から国内グループ会社各社のCO₂排出量データを把握しています。それを基に中期環境目標（17ページ参照）を設定し、事業所ごとに削減に向けて取り組んでいます。CO₂排出量の削減については、気候要因による冷暖房期間の長期化、配送センターの新設による影響があり、グループ全体では、2007年度比0.5%増加という結果となりました。

2011年度は、現行設備での削減に加え、環境配慮型の設備の導入も検討し、目標の達成に向けて努力します。また、2010年度から海外グループ会社のCO₂排出量データの把握を開始し、グローバルでのCO₂排出量の削減を推進しています。

CO₂排出量の推移



※国内グループ会社（33事業所）のデータです。
※データは、地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）に基づく係数を用いて算出しています。
※電力の排出係数は、0.410kg-CO₂/kWhを使用しています。

日々の活動の中で取り組みを継続 省資源・廃棄物管理、ごみの削減、グリーン購入

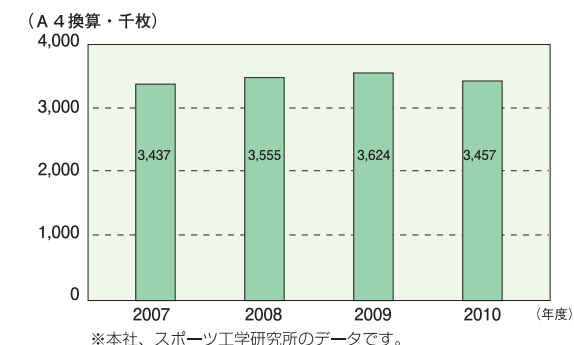
コピー用紙使用量の削減、産業廃棄物・事業系一般廃棄物の削減、グリーン購入（環境に配慮したオフィス文具の購入）の実施に継続的に取り組んでいます。

コピー用紙使用量は、2009年度比で4.6%減少しました。産業廃棄物量は、同19.5%減少、事業系一般廃棄物量は、同2.4%増加しました。

本社とスポーツ工学研究所の廃棄物には、商品開発・研究の際に使用した材料類などの産業廃棄物とオフィス業務から出る事業系一般廃棄物があります。

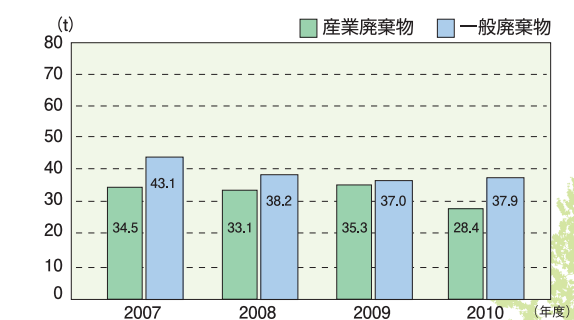
2010年度は、スポーツ工学研究所で排出された廃棄物6.5トン（RPF（固形燃料）としてリサイクルしました。今後は、より多くの事業所で、省資源・廃棄物の削減に取り組んでいきます。

コピー用紙使用枚数



※本社、スポーツ工学研究所のデータです。

廃棄物量



※本社、スポーツ工学研究所のデータです。

事業所ごとの主な活動

支社・販売会社	・消灯の徹底 ・省エネ型照明への切り替え ・アイドリングストップ等のエコドライブの実施、教育 など
生産工場	・不要箇所の消灯の徹底 ・クールビズ、ウオームビズの徹底 ・機械設備の省エネ化の推進 など
物流センター	・作業の効率化による稼働時間の短縮（使用電力の削減） ・不使用機器の電源オフ ・集約配送効率の向上 など
本社・スポーツ工学研究所	・消灯、節電、エコドライブの継続 ・テレビ会議システムの活用による、出張にかかるCO ₂ の削減 ・製品輸送コンテナの積載率・充足率の向上 ・社屋の環境配慮設計、省エネ型照明への切り替え ・グリーンカーテン設置による冷房の節約 など

持続可能な発展を目指すものづくり

環境に配慮した商品の開発

地球温暖化問題や資源の枯渇、水資源の枯渇、生物多様性の保全の問題は、ものづくりと密接に関係しています。アシックスは、スポーツ用品の製造工程及びその商品を通じて省資源や省エネルギーに取り組むことが、環境問題の改善に貢献し、当社の持続可能な発展につながると考えています。

当社は、商品の環境配慮設計を重視し、設計段階から環境に配慮するように、環境配慮型商品認定基準を設定しています。環境に配慮した素材や工程の選択など、商品の原材料調達から、生産、流通、使用、廃棄に至るライフサイクルの各段階で環境に配慮したもののづくりを推進しています。

これまでにも、リサイクル材を採用した商品や回収リサイクルシステムを採用した商品を開発したほか、

包装材についても、シューズ箱やウエアの包装袋の材料変更や軽量化を図り、環境負荷の削減を進めてきました。また、委託先工場と協働し、水溶性接着剤の導入を進めるなど、シューズ製造での有機溶剤の使用量の削減に努めています。

当社のスポーツ工学研究所では、環境に配慮した生産技術の研究や、製造工程の効率化・省エネ化の研究を進めています。これらの研究や技術を生かし、商品のライフサイクル全体での環境配慮に取り組んでいきます。

製品に含まれる化学物質についても、法規制を順守し、お客様の声に応えるため、管理・運用のガイドラインを作成し、管理体制の構築を進めています。

環境配慮型商品認定基準の設定

右表に基づき、商品種別ごとに詳細基準を設定。その基準を満たした商品を当社の環境配慮型商品とし、「アシックス エコプランマーク」を付けています。

この認定基準は開発者の声、市場要求に合わせて、随時見直しています。

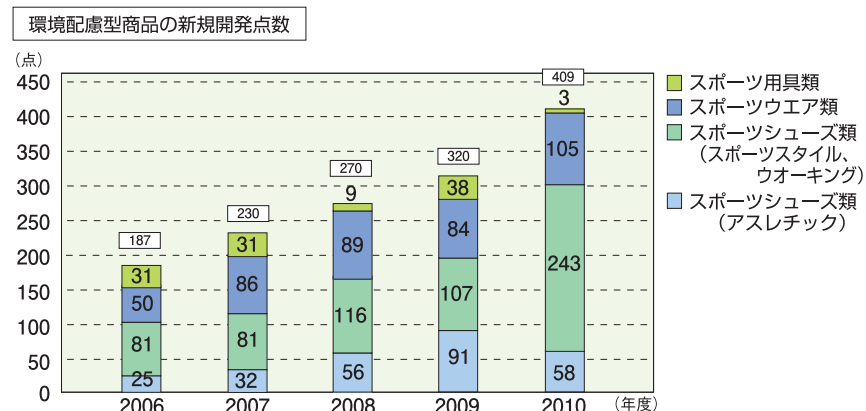


アシックス エコプランマーク

アシックス エコプランマーク認定基準	
クリーン	環境への負荷を減らすものづくりに取り組みます。 ★環境に配慮した素材、材料を使用し、廃棄時などの環境負荷を減らした商品。 ★廃棄時の環境負荷を減らすため、分別・分解しやすい素材・構造になっている商品。
セービング	ものづくりにおける省エネ・省資源活動に取り組みます。 ★材料の使用量を減らし、省資源に取り組んだ商品。 ★共通の材料を使用することにより、資源を有効利用して作られた商品。 ★製造工程の効率化により、省エネに貢献した商品。
サステナブル	商品の長寿命化を促進し、廃棄物の減少に貢献します。 ★消耗部位の修理、交換が可能な商品。また、修理、交換が容易な構造になっている商品。 ★耐久性に優れた素材・構造が採用された商品。
リサイクル	循環型社会を目指し、リサイクルを促進します。 ★循環型リサイクルシステム(製品⇒回収⇒リサイクル⇒製品)の仕組みを利用して作られた商品。 ★廃材を再利用して作られた商品。 ★リサイクル素材を使用した商品。
包装資材への取り組み	包装資材も商品の一部とらえ、軽減、簡素化に取り組みます。

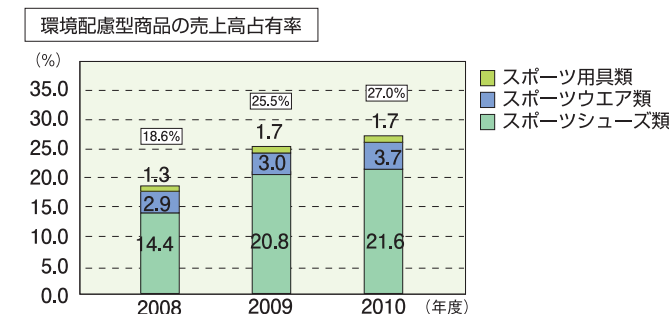
開発目標と結果

2010年度は、「アシックス エコプランマーク認定基準」に基づく環境配慮型商品の新規開発目標を338点に設定。409点(目標比71点増、2009年度比89点増)開発し目標を達成することができました。



売上高占有率目標と結果

2010年度は、環境配慮型商品の国内の売上高に占める割合を20%に向上させるという目標を設定しました。その結果、前年度比1.5ポイント増の27.0%に達し、目標を達成することができました。



環境配慮型商品開発事例

①品名:GEL-NIMBUS 13

- ・再生ポリエステルを使用した人工皮革を採用
 - ・廃材が出にくい製法を成型工程に採用
 - ・耐久性に優れたソール素材を採用した商品
- (2011年8月発売予定)



②品名:BC WALKER

- ・廃材が出にくい製法を成型工程に採用
- ・耐久性に優れたソール素材を採用した商品



③品名:W'S ウインドブレーカージャケット

- ・再生ポリエステル生地を採用
- (2011年9月発売予定)



④品名:スイムウエア

- ・再生ポリエステル生地を採用



※このページの商品は、今後販売終了や仕様変更となる可能性があります。

常に環境配慮を基盤に置いて
その他の取り組み

地球温暖化対策加速化支援無利子融資 (利子補給)

環境省の「地球温暖化対策加速化支援無利子融資(利子補給)」制度を活用し、利子補給による実質無利子での融資を受けました。この決定を受けて、茨城県の「つくば配送センター」新設資金の一部に、この融資を充当しています。

同配送センターは、トッランナー変圧器、Hf蛍光灯、人感センサー照明、気流温度解析による換気風量削減など、当社従来型設備と比較してCO2排出量を約24.3%削減できる省エネルギー型設備を導入しています。

SMB C環境配慮評価私募債

アシックスに対する環境配慮状況の評価結果は、「環境保全対策の取り組みと成果」、「環境ビジネスと環境コミュニケーション」の面で特に高い水準であると判断され、「企業経営において良好な環境配慮を行っている」との評価を受けています。

物流における環境配慮

物流拠点での配送の集約化・効率化を推進し、コンテナラウンドユース(空コンテナの有効利用)、容積率の向上などによる環境負荷の低減に努めています。

海外グループの環境保全活動

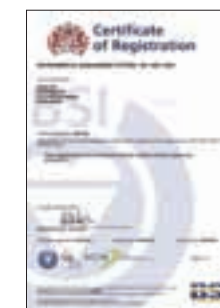
環境マネジメントシステムを導入

アシックスヨーロッパB.V.での環境活動

■実施内容

・ISO14001認証の取得

2010年3月に認証を受けたアシックスヨーロッパB.V.に続き、同社傘下のアシックスドイツシュラント GmbH、アシックスオーストリア GmbH、アシックスポルスカ Sp.zo.o.で、認証の取得に向けISO14001のマネジメントシステムの導入を進めています。



ISO14001の登録証

・世界スポーツ用品工業連盟のCSR委員会に参加

アシックスを代表して世界スポーツ用品工業連盟(WFSGI)のCSR委員会に参加し、環境問題について、様々なNGO・NPO、大学とのコミュニケーションを図っています。

経営視点での環境活動の見直しを年1回実施

マネジメントレビュー

アシックスでは、経営視点での環境活動の見直しをするため、年1回、「社長による見直し会議」を実施しています。



社長による見直し会議

2011年3月の同会議で、2010年度の活動を見直し、以下の事項を決定しました。

■決定事項

- (1) 環境方針を継続する。(17ページ参照)
- (2) 中期目標の活動内容(環境配慮型商品の売上高占有率の向上、CO₂排出量の削減)を継続する。
- (3) 「統括部」を活動単位とし、関連子会社を含めて組織及び責任範囲を明確にして、環境活動を実施する。

環境会計

アシックスは、2010年度から、自らの環境保全に関する投資額やその費用を正確に把握し、投資効果や費用対効果を経営の意思決定に反映させる「環境会計」に取り組みました。

この会計システムはまだ初期の段階で、不確定要素もありますが、今後も改善を進め、環境経営のための指標として活用していきます。

温室効果ガスの排出量削減活動を推進

アシックスアメリカコーポレーションでの環境活動

■実施内容

・温室効果ガスの排出量を算出

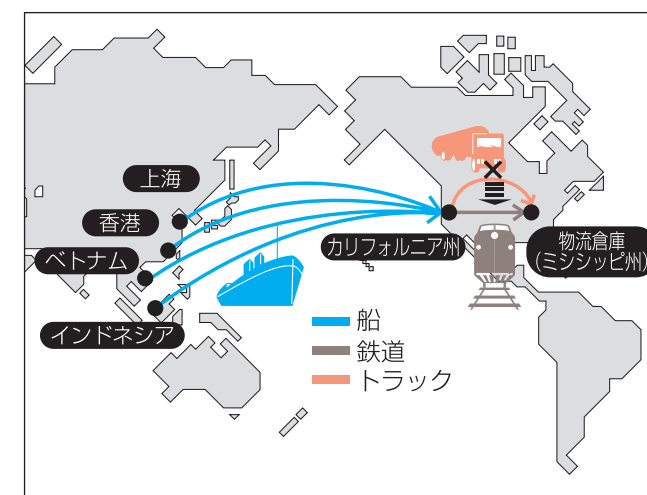
事業活動によって排出される温室効果ガスの排出量を算出し、分析しました。

- (1) 直接排出の範囲：社有車の使用で排出される温室効果ガス
- (2) 間接排出の範囲：事業所での電気使用
- (3) その他の間接排出の範囲：出張に伴う交通機関の利用、従業員の車通勤、水使用、ごみ処理等

・物流に関わるCO₂排出量を削減するためモーダルシフトを実施

商品の配送の一部を従来のトラックから鉄道に変更したことにより、2009年度比6.7%のCO₂削減を達成しました。

トラックから鉄道へのモーダルシフト



・環境に配慮した物流倉庫を建設

アメリカ国内の新物流拠点として建設中の倉庫には、高効率モーターを使用したベルトコンベヤーシステム(従来比最大8%の電気使用量の削減)、人感センサー照明(従来比最大30%の電気使用量の削減)、室内温度の上昇を抑える効果のある熱反射ルーフなど、環境に配慮した設計を採用しています。

環境保全コスト

(単位：千円)

分類	主な取り組み内容	投資額	費用額
1 事業所内コスト		0	34,233
1 公害防止コスト	点検・検査及び分析費用	0	13,921
1 地球環境保全コスト	省エネ機器の導入費用、省エネカーの導入	0	14,624
1 資源循環コスト	リサイクル材料の使用、省エネ設備の導入	0	5,688
2 上・下流コスト	グリーン調達など	0	0
3 管理活動コスト	ISO14001管理費用など	0	6,465
4 研究開発コスト	環境配慮型製品開発など	12,650	66,099
5 社会活動コスト	地域環境支援、寄付など	0	291
6 環境損傷対応コスト	—	—	—
7 その他環境保全に関するコスト	—	0	0
合計		12,650	107,088

※本社及びスポーツ工学研究所のデータのみ ※商品に含まれるリサイクル材料は未集計

環境保全効果(物量)

環境側面		2009年度	2010年度	増減
省エネルギー・省資源	電力(kWh)	3,133,226	3,282,005	148,779
	ガス類(m ³)	149,224	143,655	-5,569
	ガソリン(l)	40,656	41,069	413
	水道(m ³)	20,932	20,821	-111
廃棄物	産業廃棄物焼却量(t)	35.3	28.4	-6.9
	一般廃棄物排出量(t)	37.0	37.9	0.8

環境保全効果(金額)

(単位：千円)

環境側面	2009年度	2010年度	増減
電気・ガス・ガソリン・水道の支払額	81,794	82,836	1,042



●公正な事業慣行 サプライチェーン管理

業務委託先工場の労働環境・労働条件の改善を進めています

作り手の満足が良い商品につながり、良い商品がお客様の満足につながるという考えの下、サプライチェーン全体にわたって環境、人権、労働、企業倫理などへの配慮と改善に努めています。

2010年度の目標

2010年度は、「サプライチェーンでの社会的責務を果たし、更に関連のマネジメントシステム及び成果の完成度を上げる」ことを目標に、アシックス業務委託先管理方針の浸透を図る活動や委託先工場での実地監査などを行いました。（「アシックス業務委託先管理方針」参照）

委託先工場での監査では、児童労働、強制労働などの重大な違反は認められませんでした。アシックスが監査活動に着手した2004年当時と比較すると、全体の水準は向上していると判断していますが、国際基準及び当社基準に沿って規定している当社の要求事項や118あるチェック項目すべてを問題なく満たすまでには至っていません。

改善が滞っている事柄や委託先工場の多くで同じように見つかる不順守の解決には、CSRや当社方針に対する工場経営者の深い理解を得ることがより重要です。それが工場独自での自立した活動を促し、問題を未然に防ぐことになると考えています。

そのため、2010年度は、CSR面での先進工場と共同で、委託先工場の経営陣を招いての参加型講習会を開催しました。

参加者からはおおむね好評で、また参考となる多くの意見も得ることができました。

また、委託先工場や商社の関係者とともに人権・労働環境に関する事例を学ぶフォーラムを他のブランドメーカーと共同で開催しました。

2011年度以降はそれらで得たものを基にしながら活動の精度を上げていく予定です。



委託先工場の監査

2010年度の主な活動

- ①委託先工場の監査を62工場に対して実施しました。
- ②委託先工場の経営陣を先進工場に招いての参加型講習会を中国で実施しました。
- ③一部の工場で、管理者の環境意識を調査しました。
- ④人権・労働環境改善に向けて日本のブランドメーカーが協働する会議体に参画。日本での外国人研修生・実習生に関する問題を協議しました。
- ⑤前述の会議体参加企業が主体となって、委託先工場、商社にも参加を募ってのフォーラムを開催しました。
- ⑥NGO・NPOとの対話、業界団体や他ブランドとの意見交換、サプライヤーとの協働が労働問題の解決に重要であると認識し、TWARO（被服・繊維業界の労働組合のアジア・太平洋地域組織）との情

アシックス業務委託先管理方針(骨子)

国際労働機関(ILO)などの国際的な基準にのっとり策定した、労働者の人権と労働環境に関する独自の方針です。
アシックス商品を生産するすべての委託先工場に対して、現地のあらゆる法令・規制及びアシックスの要求する雇用基準の順守を求めています。また、人権と労働面だけでなく、環境保全についても言及しているのが特徴です。骨子は以下の通り。

- | | |
|---|---|
| <p>1.一般原則
アシックス業務委託先は、その国及び地域のあらゆる法令その他の規制を順守して事業を運営する。</p> <p>2.雇用基準(項目のみ抜粋)
(1)強制労働
(2)児童労働
(3)嫌がらせもしくは虐待
(4)差別
(5)結社と団体交渉の権利
(6)賃金</p> | <p>(7)労働時間
(8)手当
(9)健康及び安全</p> <p>3.環境
アシックス業務委託先は、環境に関して適用される法令その他の規制を順守するとともに、より一層の環境保全に努める。
また、省資源、省エネルギー、廃棄物の確認、グリーン購入、汚染防止など、環境と安全に配慮した事業運営を行うものとする。</p> |
|---|---|

報交換、WFSGI（世界スポーツ用品工業連盟）のCSR委員会メンバーとの意見交換などを行いました。

- ⑦公正労働協会（FLA*）の加盟企業として、FLA独自の抜き打ち監査の受け入れ、監査結果に基づく改善、FLAへの定期的な報告をしました。
- ⑧各国の労働関連法規や政府通達、最低賃金基準などの最新情報を入手し、それらを蓄積する社内データベースを随時更新しました。
- ⑨工場従業員の声のアシックスに直接届くように、中国、ベトナムの委託先工場「アシックス苦情チャンネル」の電話番号を掲示しました。

*FLAの注釈は25ページをご参照ください。



各工場に掲示しているアシックス業務委託先方針ポスターに苦情チャンネルの連絡先を貼付(画像右下部分)

TOPICS

他ブランドメーカーとのコラボレーション

人権・労働環境の改善に向けて日本のブランドメーカーが協議する会議体に参画しています。

2010年度は、6月にアシックス本社で会議を開催し、日本特有の問題である外国人研修生・実習生の問題のほか、化学物質管理や環境問題についても話し合いました。この会議体で取り上げられる課題については、参加メーカーは継続して研究や改善に取り組んでいます。

また、10月には、参画企業が共同で、商社や委託先工場にも参加者を募ってのフォーラムを開催。人権・労働環境に関する最新動向をともに学び意見交換をする場を設けました。

アシックスでは、これら他社との協働は、自社活動の向上に役立つだけでなく、社会課題の解決に向けたより大きな力となると考えています。

工場経営陣向けの参加型講習会を実施

当社は、委託先工場でのCSR面の改善には、何よりも工場経営者の理解が不可欠であると考え、監査などによる順守状況の確認と併せて経営陣との対話も行っています。

更に2010年度は、CSR面での取り組みが進んでいる委託先工場と共同で、その他の委託先工場の経営陣に呼びかけての参加型講習会を開催しました。

講習会では、当社のCSRの概念やCSRのマネジメントシステムに対する理解を深めてもらうための講演のほか、グループディスカッション、会場となった

工場での事例見学の場を設け、一方的な説明会ではなく、参加者自ら考え発言できるような機会となるよう努めました。

参加された方からは、CSRの概念が理解できるとともに意見交換や能力向上の場になるとおおむね好評で、次の開催も求められています。

今後も、寄せられた声などを参考にしながら、CSR活動の充実に向けた委託先工場とのより良い関係作りを図ります。



講習会風景

■寄せられたその他の意見■

- CSR活動には資金・人員・設備などの面で、経営トップの理解が得られなければ継続的に維持・向上させることは難しい。
- 工場の規模や業種に応じた改善策が必要ではないか？
- 欧米の一元的な価値観や基準の押し付けではなく、宗教・風土・生活習慣・文化などの多様性を鑑みた手法が必要ではないか？



●お客様への対応(消費者課題)
安全品質と顧客満足

安全な製品の提供により、顧客満足の向上に努めています

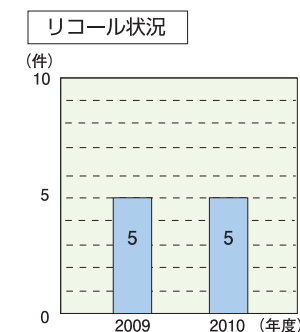
製品の安全がより強く求められる中、お客様に安全かつ快適にお使いいただくため、企画から開発、設計、生産、出荷まで、徹底した品質管理を行っています。

リコール(自主回収)について

2010年度は、残念ながら国内グループを含めて5件のリコール(自主回収)を実施しました。

リコールの概要

2010年 4月	・競泳用水着 転写プリントマークの剥離で回収
2010年 4月	・陸上競技用スパイクシューズ 甲被の破損で回収
2010年 6月	・スイムゴーグル(ジュニア用) レンズ性能の基準未達品混入で回収・交換
2010年 10月	・ダウンジャケット/ダウンベスト 表生地不良による糸抜け・綿抜けで回収
2011年 3月	・ソフトボール用及びジュニア軟式用FRP製バット 折損の可能性で回収



また、アシックスは2件の商品について、機能が実際より著しく優良であると誤って表示し、「不当景品類及び不当表示防止法」(景品表示法)に違反しました。景品表示法の規定に基づく消費者庁からの措置命令に従い、違反した旨を公示しました。

- 2011年3月
- ・レディスウォーキングシューズ：「はっ水性」の誤表示
 - ・レディススノーボードウエア：「裾上げシステム」の誤表示

これらの事態を厳粛に受け止め、今後は再発防止のため一層の管理体制強化に努めます。

アシックスの製品安全理念

当社は、製品安全・品質管理をメーカーの普遍的責務であると捉え、その基本姿勢を「アシックス製品安全理念」として明文化しています。

また、生産工場でも、製品安全意識の向上を図る取り組みをしています。

リコールなどの再発防止のため、社員教育によって「アシックス製品安全理念」の再徹底を図ります。



生産工場に掲示した啓発ポスター



品質保証についての社員教育

3種類の監査で順守状況を確認
年度別監査

アシックス商品は、世界21の国及び地域の169の委託先工場で生産されています。

2010年度は、自社監査、委託監査、FLA監査の3種類の監査*を延べ62工場対象に実施しました。

監査年	自社監査	委託監査	FLA監査	計
2006年	15	6	8	29
2007年	31	27	11	69
2008年	34	36	8	78
2009年	10	23	10	43
2010年	32	22	8	62

チェックシートに基づき分析
監査項目

「アシックス業務委託先管理方針」に沿って作成した労働契約、賃金、労働時間管理などの118項目からなる監査チェックシートを用いて監査し、その工場の順法状況を評価しています。

このチェックシートを分析した結果、労働時間の面、懲戒・嫌がらせ等に関する管理職への教育の面、及びそれらの取り組みを確認できる記録の面での指摘が比較的多いといった傾向を把握することができました。

また、例えば、中国では社会保険制度の不備や制度への不信感によって従業員の加入率が低い、というような地域特有の問題も分かり、状況に応じて改善策を講じています。

2010年度は、それらに加えて、タイの委託先工場では、メコン川流域の周辺国からの出稼ぎ労働者に対する待遇面での問題がないか、重点的にチェックしました。

大分類	中分類	小分類	順守率 (%)
契約	6	34	78
賃金	4	10	75
労働時間	3	9	76
休日/休暇	2	6	83
福利厚生	1	6	85
労使関係	5	13	63
安全衛生	7	39	72
その他	1	1	-
合計	29	118	76

※ FLA (公正労働協会)

労働者の権利保護と労働環境の改善に取り組むNPOで企業やNGO、大学が参画。アシックスは2006年に日本企業として初めて加盟しました。

無作為に選んだ委託先工場をILO憲章にのっとった独自基準で監査しています。監査結果はアシックスに報告されるとともにウェブサイトでも公開され、公正さと透明性が保たれています。アシックスは、その監査結果を工場にも報告し、ともに改善を進めるようにしています。

※ 3種類の監査

①自社監査

アシックスのCSR担当者が監査員として委託先工場を訪問し、労務管理、労働安全衛生面、環境保全に関する経営陣へのインタビューや資料の確認をします。監査時には、まずアシックスの考え方を詳しく経営陣に説明し、世界の動向も踏まえながら互いの意識レベルを合わせるようにしており、その上で問題点の抽出、改善へのアクションに移るようにしています。

②委託監査

アシックスが専門の監査会社に依頼して実施する監査です。プロの監査員が現地語で実情を確認します。工場外での聞き取り(オフサイトインタビュー)などを通じ、自社監査では集めきれない従業員の声などの情報を得ることができます。

③FLA監査

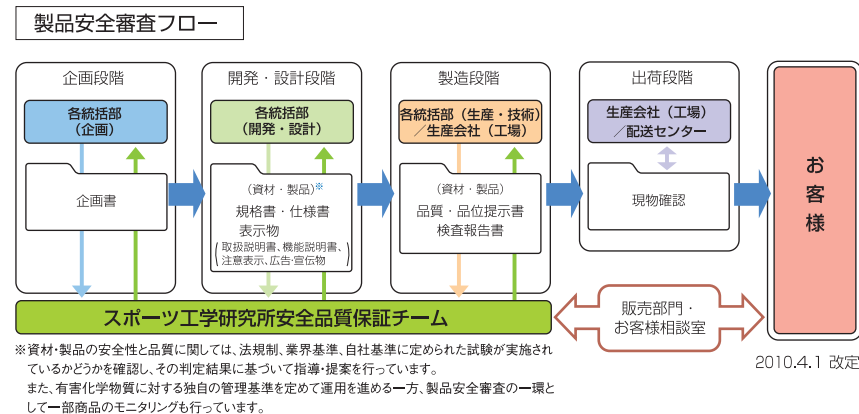
アシックスが加盟するNPO「FLA」による監査です。自社監査・委託監査ではない独立した第三者による監査も大変重要であると考えています。

品質保証の推進体制

製品安全審査フロー プロセスごとにチェックを徹底

製品安全審査の実施

お客様に安全かつ快適に商品をお使いいただくことは、メーカーとして最も大切なことです。商品企画から開発、設計、製造、品質管理を経て出荷されるまでの主な段階で、製品安全対策と品質向上対策の適合状況、及び商品・広告宣伝物等の表示について、右のフローに基づいて審査をしています。



商品に関する表示物審査

商品を誤って使用されないようにする配慮も必要です。お客様に正しく、安全に商品をお使いいただけるよう、資材調達から廃棄までの工程に関わる部署が連携

し、情報を共有して、適正で分かりやすい取扱説明書、カタログ、広告表現となるよう心がけています。

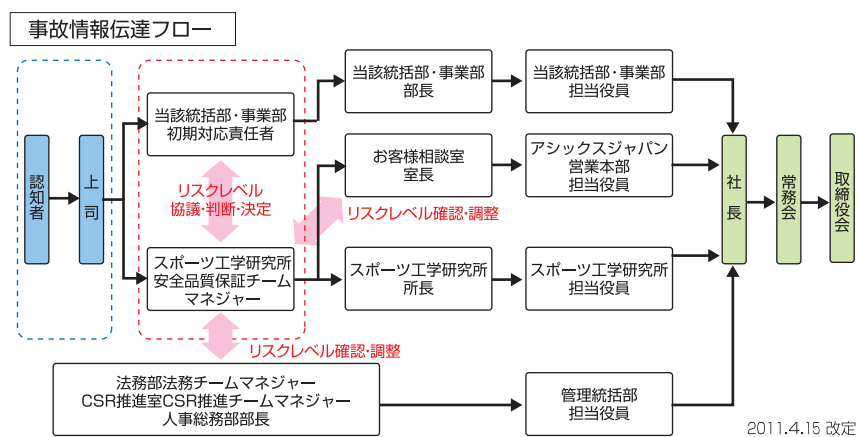
製品安全に関わる重要情報を社内共有

事故(不具合・不良)情報伝達フロー

アシックスは、製品の不具合、不良、事故が、その事象のリスクレベルによってはアシックスグループ全体の経営品質を著しく低下させ、事業活動に重大な危機をもたらすものとして認識しています。

不具合、不良、更には事故が発生した場合、及びその可能性が予測される場合に、当社はおお客様の安全を第一と考え、自社の「危機管理規程」に基づき、右記のフローに沿って正確かつ迅速に経営の中核に伝達するとともに、法にのっとり、所管官庁へ速やかに報告しています。

また被害の重大性などに応じて、新聞社告、ホームページなどによりお客様にできる限り早く情報を開示しています。



グローバルな観点で「環境」、「健康」に配慮 有害化学物質管理

欧州の REACH 規則^{※1}、米国の子ども用製品に対する鉛規制などを始め、有害化学物質の地球規模での管理が進み、環境に関する規制も厳しくなっています。

特に REACH 規則は、これまでの化学物質管理の方法では人の健康と環境を十分に守ることができないとの認識から、予防原則を基に既存制度を根本的に見直し策定されており、人の健康被害の防止に加え、動植物の生育、生息への影響をも防止するよう対象が広がっています。

当社は、「アシックス環境方針」に基づき、製品の化学物質の管理・運用に関する「ASICS 有害化学物質ガイ

ドライン」を制定しています。このガイドラインでは、法規制と環境アセスメントに基づいて化学物質を禁止物質、管理物質の2つの管理ランクに区分し、その管理基準に従って製造委託取引先に管理・運用を求めています。

また、RoHS 指令^{※2}での特定有害化学物質の使用制限は、電子・電気機器製品を対象にしたもので、本来スポーツ用品は該当しませんが、当てはめて考えるべき要素もあると当社は認識し、対応しています。今後も法規制や環境の変化に合わせて、随時ガイドラインを改訂していきます。

信頼されるものづくりのために 品質情報展を継続して開催

お客様からいただいた様々な声をグループ会社も含めた社内に公開する「品質情報展」を2003年から毎年2回開催しています。

お客様がご不満を持たれた商品や不具合品と、それに伴うお客様の声、お客様相談室の対応内容、品質管理部門によるお客様の指摘部分に対する検査・確認結果を展示するものです。

2010年度は、お客様の声を製品・サービスの改善・改良に生かす活動の一環として、それぞれの事例に今後の改善に向けた品質管理部門や開発・生産部門の



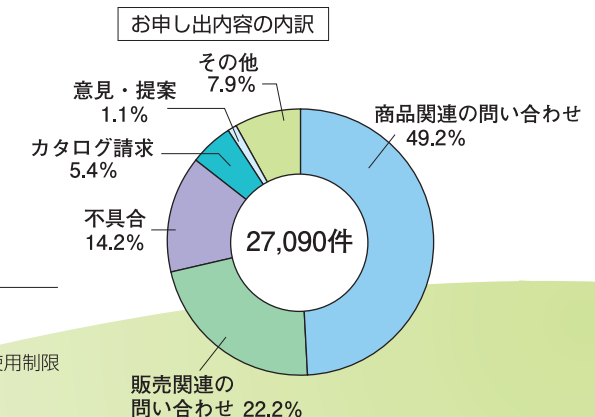
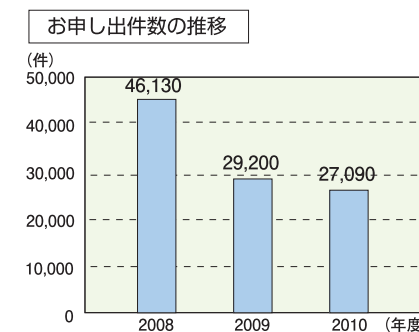
コメントを添えて展示しました。また、お客様の声により多く触れることができるよう、不具合事例とは別に、いただいた感謝のことも紹介しました。

今後も、お客様視点に立つという基本姿勢の認識を喚起する場の提供に取り組んでいきます。

お客様満足の向上を目指して

アシックスの「お客様相談室」は、1980年、創業者である故・鬼塚喜八郎の「ユーザーの不満を掘り起こせ。そこに宝の泉がある」との考えから設立された「消費者相談室」が前身です。設立に際して鬼塚は、「単なる苦情処理ではなく、お客様の声を社内に伝える」という大切な機能を盛り込むことを重視しました。

その基本精神は、現在も脈々と受け継がれ、お客様からいただいたご意見、ご要望、お叱りをもものづくりに生かすように努めています。現在では、企業ブランドの維持や経営に関わる社会、消費者・生活者との窓口及び企画・開発、生産、営業の各部門とのインターフェースとして活動しています。



※1 REACH規則

化学物質の登録、評価、認可及び制限に関する規則。

※2 RoHS指令

電子・電気機器での特定有害物質の使用制限に関する欧州連合(EU)による指令。



●コミュニティ参画及び開発
社会貢献

スポーツ用品メーカーとしての社会貢献活動を目指します

スポーツ文化の普及に努めるなど、良き企業市民として社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。



●お客様への対応(消費者に対する課題)
個人情報管理

個人情報を適切に管理・保護しています

お客様の財産である個人情報を大切に管理することを重要な責務と考え、適切な管理・保護に取り組んでいます。

アシックスグループの個人情報管理体制

2010年度は、2009年度と同じく「お客様からお預かりした個人情報を適切に管理・保護する」を目標に活動しました。この目標は2009年度末に年間の活動を振り返った「社長による見直し会議」で決定したものです。この達成のため、次の2点の実施計画を定め、具体的な活動に当たりました。

- (1) 個人情報に関わりの多い営業部門の教育を優先させる
- (2) グループ会社の個人情報セミナーはリスクの高い3社を優先させる

2011年3月に開催された「社長による見直し会議」では、2010年度の活動結果に基づいて2011年度の活動計画を策定。次の2つの目標達成に向けて活動していきます。

- (1) 個人情報の外部への持ち出しに関するルールの再検討
- (2) 小売部門の社員に向けたセミナーを充実させる

2010年度の実績

計画	実績	評価	課題	改善策
(1)個人情報に関わりの多い営業部門の教育を優先して実施する	関西支社 6月上旬 東京支社 6月中旬 本社・スポーツ工学研究所 6月下旬	計画通り営業部門から優先して実施し、リスクを低減させることができた	全員参加の目標達成のために、複数回の補講を実施しなければならなかった	コミュニケーションを強化し、参加しやすい日程で教育を実施する
(2)グループ会社の個人情報説明会はリスクの高い3社を優先し実施する	アシックス北海道販売株式会社での個人情報説明会の実施及び店舗指導	3社のうち1社に対して、基礎的な内容及び店舗での個人情報の管理について指導した	日程の都合がつかず残りの2社の説明会が実施できなかった	お客様相談室との合同説明会を計画し国内販売会社すべてに対して説明会を実施する



プライバシーマーク

個人情報管理方針

(株)アシックスは、個人情報を大切に管理することを重要な責務と考え、以下の項目について十分に注意を払い、個人情報の管理に努める所存です。

- 1.当社は、各種スポーツ用品及びレジャー用品の製造・販売を主要事業と致しておりますが、このような事業の内容及び規模を考慮して適切に利用目的を特定するとともに、その範囲内で個人情報を取得、利用及び提供致します。
- 2.特定された利用目的の達成に必要な範囲を超えた個人情報の取扱いを行わないとともに、そのための措置を講じます。
- 3.個人情報の漏えい、滅失またはき損の防止及び是正に努めます。
- 4.個人情報に関する法令、国が定める指針及びその他社内外の規範を遵守致します。
- 5.苦情及び相談を受け付けた場合は、適切かつ迅速に対応致します。
- 6.個人情報を適切に管理、保護するためのマネジメントシステムを構築し、継続的改善に努めます。

制定日 2005年4月1日
改定日 2008年2月8日
株式会社アシックス
代表取締役社長 CEO 尾山 基

継続的な地域社会とのかかわり

スポーツ用品メーカーとして、そして地域社会の一員として、アシックスは継続的な社会貢献活動をグローバルに展開しています。世界の各地域の慣習や風

土を深く理解した上で、より良い社会の実現を目指すことが大切であると考え、それぞれの地域に根ざした活動に取り組んでいます。

幅広い層が参加できるイベントを支援
スポーツの振興のために

- (1) 第5回東京マラソン
開催時期：2011年2月
申込者数：335,147人
出走者：36,449人
完走者：35,505人
完走率：97.4%
- (2) 第3回アシックス東北販社 パークゴルフ大会
開催時期：2010年4月、10月
参加者：186人、105人
- (3) 第8回アシックスオープンパークゴルフ大会(北海道)
開催時期：2010年6月
参加者：延べ400人

- (5) 当社設備の一般開放
(本社アトリウム)
兵庫県バスケットボール協会
NPO法人神戸アスリートタウンクラブ「卓球教室」
- (6) スペシャルオリンピックス日本
NPO法人スペシャルオリンピックス日本(SON)が開催する各種大会及び日常活動に社員がボランティア参加



SON・兵庫 陸上競技会にボランティア参加



アシックスオープンパークゴルフ大会の開会式

- (4) 第18回アシックスカップ陸上競技大会(愛知)
開催時期：2011年3月
参加者：105団体、1,322人



アシックスカップ陸上競技大会の開会式



スポーツ経験を
生かした活動

ASICS Europe B.V.
吉本 譲二



野球チーム「ターメン」での活動

2006年からオランダに赴任し、日本人子女の野球チームのコーチ及び監督を経験しました。オランダで野球が出来るとは思いませんでしたが、日本とは異なり天然芝の見事な球場を自由に使えるところに感激しました。

シーズン中の土日はのんびりすることもできません。しかし、赴任中の4年間に感動の優勝を3回も味わえたのは貴重な思い出です。勝利のビールはいつもおいしかったです。

美しい環境を目指して
森づくり街づくりに参加

(1) 「六甲山系グリーンベルト整備事業」※1に参加
参加時期：2010年4月、5月、10月



六甲山での植樹

(2) 「KFT クリーンアップ作戦」※2に参加
参加時期：2010年7月、11月



清掃活動に参加した社員

未来世代へ伝えるために

アシックススポーツミュージアムでの活動

- (1) ミニチュアシューズ作りを実施：年間1,090人の体験
- (2) スポーツ環境校外学習に協力：10校486人
- (3) JFA「夢の教室」※3に協力：1チーム27人
- (4) 「こどものスポーツ絵画展」：
神戸市内26小学校、546人の参加
- (5) ウォーキング講習会の実施：5回65人



来館した小学生のレポート



「こどものスポーツ絵画展」の作品



ミニチュアシューズ作り

※1 六甲山系グリーンベルト整備事業

土砂災害に強く、自然豊かな森づくりを目的として、六甲山で実施されている砂防事業。アシックスは、本事業の「森づくり実施要領」に基づき、国有地内の活動地「ANIMA(アニマ)の森」で樹林整備を行っています。

※2 KFTクリーンアップ作戦

KFT(神戸ファッションタウン・ネットワーク)が主催。当社が本社を置く神戸ポートアイランドの地域住民、大学、企業が、自分たちの街を美しくするために年2回実施している一斉清掃です。

※3 JFA「夢の教室」

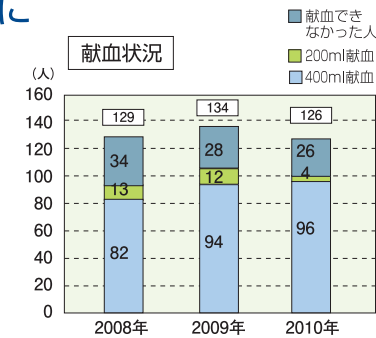
Jリーグ、なでしこリーグの現役の選手、OB/OGなどのサッカー関係者、多種目の現役選手などを派遣し、「夢の教室」と呼ぶ5年生を対象とした授業で、夢を持つことの大切さ、仲間と協力することの大切さを講義と実技を通じて教えています。

献血やチャリティー活動に参加
大切な命のために

(1) 日本赤十字社の
献血活動に参加

本社をポート
アイランドに移
転した1985年
から献血バスに
よる年2回の献
血活動に参加しています。

実施時期：毎年3月と8月



社内での献血活動

物品提供や支援事業

東日本大震災被災地への継続的な支援

2011年3月11日に発生した東日本大震災の被災地域に、2,050万円の義援金とウインドブレーカー、ウォーキングシューズ、子ども用のシューズ及びトレーニングウエア計66,000点などを提供しました。2011年度は更に、両親を亡くした震災遺児が心身ともに健やかに成長できるようにスポーツを通じた継続的な支援活動を開始します。

アシックスは、1995年の阪神・淡路大震災で被災した際には全国の皆様から多くの温かい支援をいただきました。その経験から、今回のような大災害では、継続的な支援が必要であると考えています。

ボランティア休職制度で青年海外協力隊に

タンザニアでの教育支援に人員を派遣

青年海外協力隊(JICA)のタンザニアでのボランティア事業に人員を派遣しています。イフダ女子中等学校での理数科教師不足を補う活動で、「ボランティア休職制度」を活用しての参加です。2011年1月から現地でスワヒリ語と英語の研修を受けた後、4月の新学期から実際に教壇に立ちます。

2013年1月までの2年間の派遣期間中に子どもへの教育や現地生活で得た貴重な体験を、今後の業務に生かしていくことが期待されます。

(2) KiKa foundationのためのチャリティーラン

小児がんの子どもを支援するNPO(KiKa foundation)をサポートするために、Dam tot Damloop 10マイルランにアシックスヨーロッパのメンバーが参加しました。

実施時期：2010年9月

参加者：22,583人(完走者)



チャリティーランに参加した社員

また、「将来を担う青少年の健全な育成にスポーツを通して役立ちたい」との創業者の思いから設立された企業であることを踏まえ、今後もスポーツを通しての青少年育成に貢献していきます。



東北への支援物資運搬

Voice

マーケティング部WEBサイトチーム
幾山 未有

大きな空や大自然に感銘を受けたほか、異なる言語と文化の中、これまで触れたことのない考え方や常識の存在を知ることもできました。いろいろなことに気付かされ、考えさせられる刺激的な毎日を過ごしています。

貴重な経験を更に積んで、今後にも生かせるよう、2年間精進していきたいです。

GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン2006(第3版)」標準開示対照表

GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン2006(第3版)」標準開示に従い、掲載した項目について、「ASICS CSR REPORT 2011」の該当ページを記載しています。

報告事項		関連ページ
1	1.1 組織にとっての持続可能性の適合性と、その戦略に関する組織の最高意思決定者(CEO、会長またはそれに相当する上級幹部)の声明	P3~P4
	1.2 主要な影響、リスクおよび機会に関する記述	P8、P17、P18、P21、P25、P26
2	2.1 組織の名称	表表紙
	2.2 主要なブランド、製品およびサービス	P2、P20、P28
	2.3 主要部署、事業会社、子会社および共同事業などの組織の経営構造	P2
	2.4 組織の本社の所在地	P2
	2.5 組織が事業展開している国の数および大規模な事業展開を行っている、あるいは報告書中に掲載されているサステナビリティの課題に特に関連のある国名	P1~P2
	2.6 所有形態の性質および法的形式	P2
	2.7 参入市場(地理的内訳、参入セクター、顧客、受益者の種類を含む)	P1~P2
	2.8 報告組織の規模	P1~P2
	2.9 規模、構造または所有形態に関して報告期間中に生じた大幅な変更	P1、P3
	2.10 報告期間中の受賞歴	
3	3.1 提供する情報の報告期間(会計年度、暦年など)	P2
	3.2 前回の報告書発行日(該当する場合)	P2
	3.3 報告サイクル(年次、半年ごとなど)	P2
	3.4 報告書またはその内容に関する質問の窓口	裏表紙
	3.5 報告書の内容を確定するためのプロセス	P8
	3.6 報告組織の範囲	P2
	3.7 報告書の報告内容の範囲または報告組織の範囲に関する具体的な制約を記載する。報告組織の範囲および報告内容の範囲が組織の重要な経済・環境・社会的影響の全範囲を取り扱っていない場合は、全範囲を網羅するための戦略と予定スケジュールを記載する	P2
	3.8 共同事業、子会社、リース施設、アウトソーシングしている業務および時系列でのおよび/または報告組織間の比較可能性に大幅な影響を与える可能性があるその他の事業体に関する報告の理由	
	3.9 報告書内の指標およびその他の情報を編集するために適用された推計の基となる前提条件および技法を含む、データ測定技法および計算の基盤	
	3.10 以前の報告書で掲載済みである情報を再度記載することの効果の説明、およびそのような再記述を行う理由(合併・買収、基本となる年・期間、事業の性質、測定方法の変更など)	
	3.11 報告書に適用されているスコープ、バウンダリーまたは測定方法における前回の報告期間からの大幅な変更	
	3.12 報告書内の標準開示の所在場所を示す表	P2
4	4.1 戦略の設定または全組織的監督など、特別な業務を担当する最高統治機関の下にある委員会を含む統治構造(ガバナンスの構造)	P9
	4.2 最高統治機関の長が執行役員を兼ねているかどうかを示す(兼ねている場合は、組織の経営におけるその役割と、このような人事になっている理由も示す)	
	4.3 単一の理事会構造を有する組織の場合は、最高統治機関における社外メンバーおよび/または非執行メンバーの人数を明記する。	P9
	4.4 株主および従業員が最高統治機関に対して提案または指示を提供するためのメカニズム	P9
	4.14 組織に参画したステークホルダー・グループのリスト	
	4.15 参画してもらったステークホルダーの特定および選定基準	
5	5 経済	P1
	環境	P16~P22
	労働慣行とディーセント・ワーク(公正な労働条件)	P14~P15
	人権	P13、P23~P25
	社会	P13
	製品責任	P26~P28

- 1 戦略及び分析
- 2 組織のプロフィール
- 3 報告要素
- 4 ガバナンス、コミットメント及び参画
- 5 マネジメント、アプローチ及びパフォーマンス指標

● 編集後記 ●

担当役員から

2011年度から5年間の中期経営計画として「アシックス・グロース・プラン(AGP) 2015」をスタートさせました。国内外のアシックスグループがアシックススピリットという共通の価値観を通じて、その達成を目指します。

私たちは、現業を通じての社会貢献がアシックスの使命であると信じております。ますますグローバル化する社会の一員として、新たなアシックスCSR方針を基に持続的発展が可能な社会の実現に努めます。それを皆様に分かりやすく正確にお伝えするのはもちろんのこと、より多くの方にご覧いただくために、今後もCSRレポートの内容、構成、紙面の見やすさなど、検討を重ねてまいります。

当レポートをお読みいただき、皆様の忌憚(きたん)のないご意見、ご感想をいただければ幸いです。

取締役常務執行役員・管理統括部長
佐野 俊之

CSR推進室一同から

2010年11月に発行された社会的責任に関する国際規格ISO26000については、今後の社会的責任に対する国際規格となることから、チーム内で勉強会を開催してその内容把握に努めました。

海外を含めたステークホルダーとのコミュニケーションでは、このような基準があるとより円滑な意思疎通ができるというメリットがあります。ただ、ISO26000内で定義されている7つの中核主題は項目間の関連性が高く、CSRレポートのような限られた紙面の場合は、記事についての重複が生じないような調整が必要でした。

2010年度のCSRレポートに対するアンケートの回収率が低く、統計処理をして開示する数には至りませんでした。しかし、「詳細データの開示」、「第三者の意見の掲載」などの改善点を求める声をいただいています。残念ながら今回のレポートに反映させることはできませんでしたが、本年はできるだけたくさんの方々に当社CSRレポートをご覧いただき、その声を次年度の紙面に反映させることができればと思います。